

13. 家庭電気品および業務用電機品

HOUSEHOLD ELECTRIC APPLIANCES AND ELECTRIC INDUSTRIAL APPARATUS

13.1 電動機応用品

年々長足に普及した家庭電気品は、37年度もさらにデザイン・機能の改良付加が行なわれ継続して生産の増加をみた。製品改良のおもなものは扇風機で、ベース前面で首振の始動停止、角度調整ができるものとなり、換気扇には吸排気をプルスイッチの操作により使いわけの吸排換気扇が開発された。ファミリークーラはポンプ運転操作のスイッチを付けたものとなり、また冷房容量の大形のものが追加された。

電気洗濯機については渦巻、自動反転切換可能な二段水流式洗濯機2種ができ、また一槽式脱水洗濯機も加わった。全自動洗濯機はさらに構造を合理化し、品質と取扱性を向上した。

電気掃除機は手許スイッチのコードをホースに内蔵し、シリンダ形にもコードリール付のものを発売した。

ポンプは圧力開閉器の小形化が完成し、自動空気補給装置の長寿命化と配管据付工事の容易さに改良が行なわれた。

13.1.1 扇 風 機

38年度の扇風機は質量ともに飛躍的な発展をとげ、日立扇風機の歴史に一時代を画した。おもな点をつぎに紹介する。

(1) ハーモニックブレード採用機種を増大

25, 30 cm の新しいハーモニックブレードを開発して、その採用機種を増大し、騒音の低下と性能の向上をはかった。

(2) 首振りの前面操作化

ベースの前面から首振り角度を変えられる扇風機を開発した。特に卓上扇に採用した0度から100度まで無段階に首振り角度を変えられる機構はほかに類を見ないものであり、またお座敷扇に採用した30度から90度までの首振り角度調整装置は軽快な操作で扱いやすいものである。また首振りの始動停止をベース前面で操作できる機構にも独自のものを開発し、卓上扇、お座敷扇の別なく採用した。

(3) 35 cm 扇風機の開発

日立としては初めて35 cmの扇風機を生産した。前から見ても横から見ても均勢のよくとれた扇風機であり、30 cm と40 cm の

中間の新分野を開拓するものである。

(4) 新色カラーの開発

従来は青系統と緑系統の色が主体を占めていたが、本年はこのほかに赤系統の色、無色透明に近い色を開発して色彩を豊かにした。

(5) 軽量化、便利化

20 cm の扇風機に初めてプラスチックのベースを採用し、またスタンド扇、オート扇についても鋳物を鋼板化して重量を軽減した。なお30 cm お座敷扇の上下固定装置をワンハンド化し、オート扇に化粧カバーを付属するなど便利化した点も多い。

13.1.2 換 気 扇

38年度は25, 30 cm 吸排換気扇を開発し、さらに吸排換気扇のもっている数々の特長を取り入れた25, 30 cm 自動および連動換気扇の改良を行なった。そのおもな特長は次のとおりである。

音がきわめて小さく、さらに重心支持した完全な防振構造になっているので壁に伝わる振動もきわめて小さい。ベルマウス状ファンガイドが有効に働いて豊富な換気量となっている。壁に取り付けた際、室内に出張る部分が非常に小さく薄形の機能的なデザインになっている。シールド形ボールベアリングの採用により保守が簡単である。ファンガイドが油よけをかねているので周囲の壁をよごさない。シャッターフレーム部とモートルアーム部の取りはずしができるので換気扇の取り付け、掃除が簡単である。全密閉形コンデンサモートルを使用しているのでダストの多い場所や湿気の多い場所でも安心して使用できる。このほか吸排換気扇はプルスイッチの操作によりモートルの回転方向を任意に変えて吸排両用に使用できる。

13.1.3 ファミリークーラ

ファミリークーラは、簡易冷房機として好評を得、ここ数年間に急激に伸長した。今年度は、従来の3,000, 5,000 kcal/h に大形7,000 kcal/h を加え、デザインを全機種統一したライトグレー系の新鮮な色調とし、性能については下記のような画期的改良を行なった。

すなわち熱交換器の改良により、冷房効率を上げ井戸水の消費量を他社製品より著しく経済的にし、また特殊なさび止め処理を施し



第1図 D-203B形
扇風機

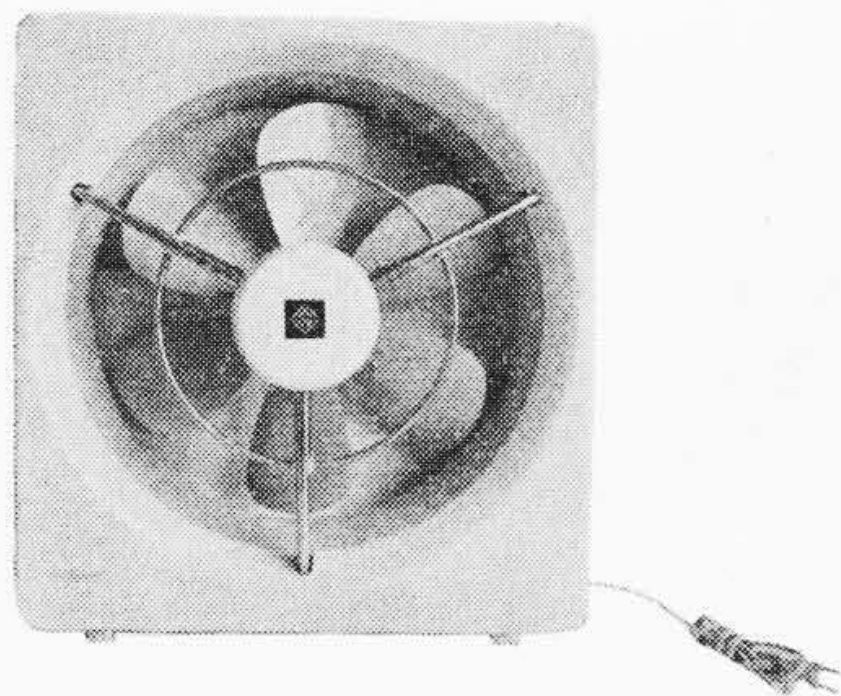
第2図 H-253A形
扇風機

第3図 D-303B形
扇風機

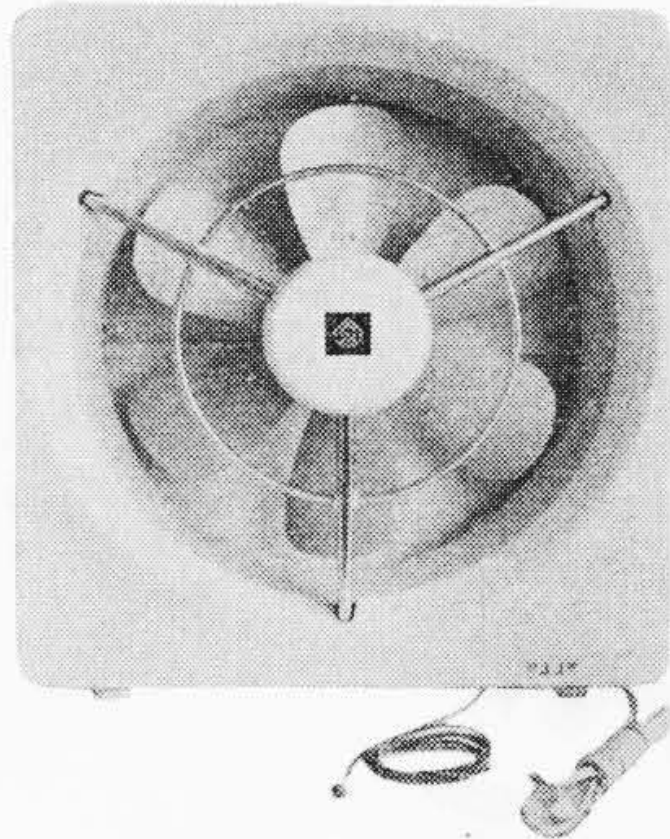
第4図 D-303D形
扇風機

第5図 H-303A形
扇風機

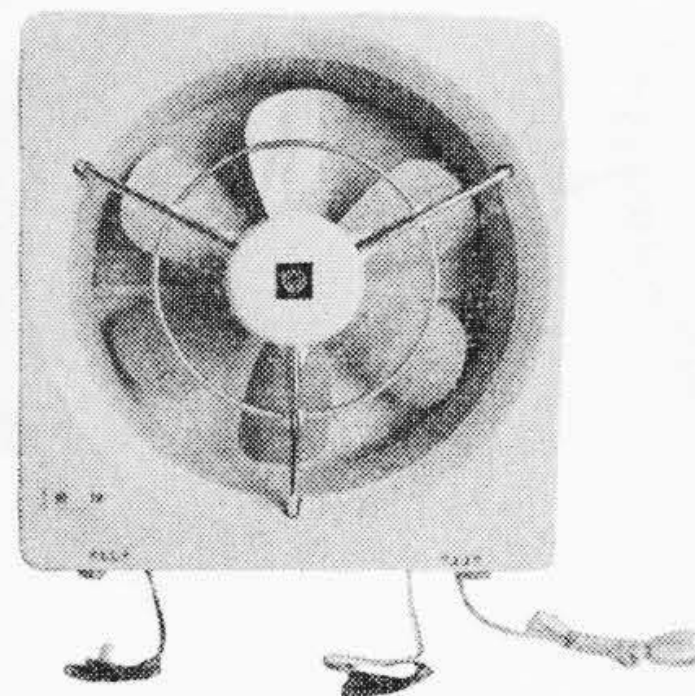
第6図 D-353形
扇風機



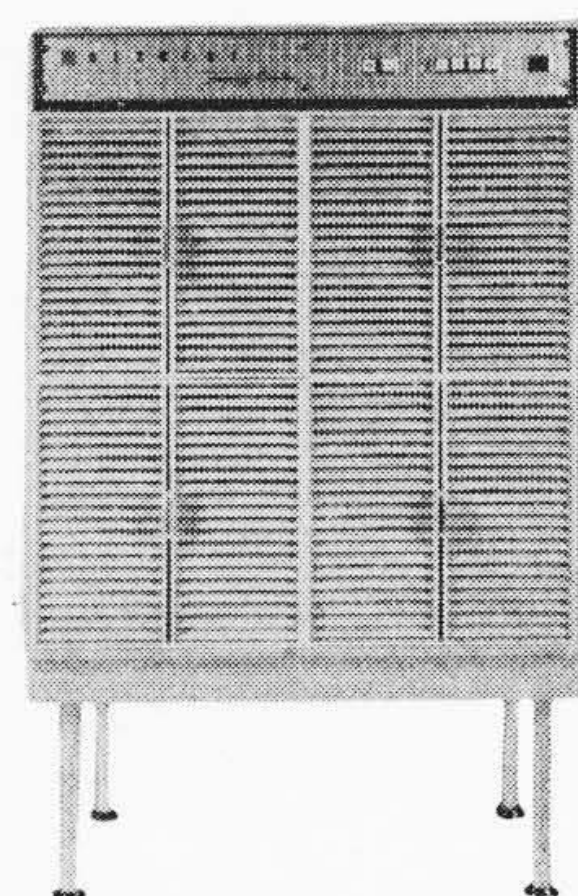
第7図 30 cm UA-303 形
自動換気扇



第8図 30 cm UL-303 形
連動換気扇



第9図 30 cm RL-301 形
吸排換気扇



第10図 FC-331 形
ファミリークーラ

て耐久性を向上した。またファンおよびファンガイドの改良およびモータの防振支持により騒音を各社中最低に引き下げた。そのほか取り扱いに関しては吸、排水配管から露がたれないように考慮し、またルーバーの取りはずしにパテントの構造を採用して、掃除の便宜を図った。さらにポンプスイッチを加えることにより、ファミリークーラ前面にて容易にポンプを操作できるようにした。

以上のほか、製品全体の耐水圧バランスを考慮し、家庭用井戸ポンプの水圧に十分耐えるようにし、また暖房用として40~60℃の通湯により、十分暖房効果が得られるようにした。

13.1.4 電気洗濯機

38年度は新たに主流品として二段水流式洗濯機2機種を製品化し、さらに新形全自動洗濯機および一槽式脱水洗濯機を発表するなどいっそうの向上をみた。

(1) SH-PT 1000 形二段水流式洗濯機

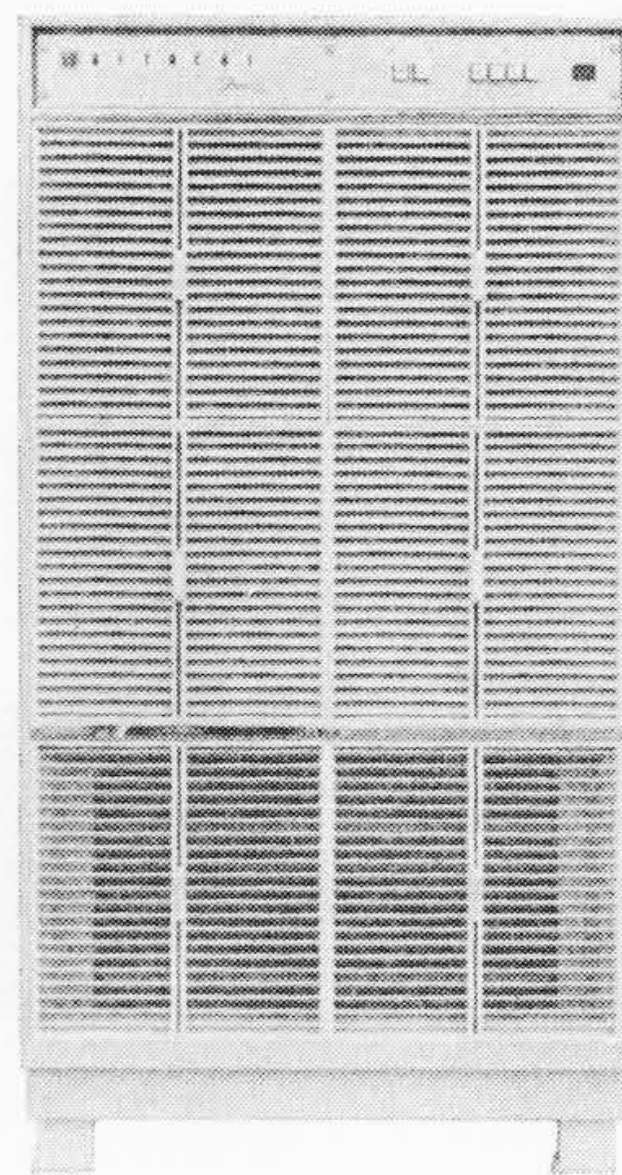
一方向に連続回転する渦巻水流と、30秒ごとに左右交互に回転する反転水流とを切り替えて、布地の種類や、よごれの度合いに応じた合理的な洗濯のできる二段水流式の普及形洗濯機である。日立独特のソープスタンド付操作パネルや布地別の洗濯時間表示など実用性の高い設計になっている。

(2) SH-PT 1100 形二段水流式洗濯機

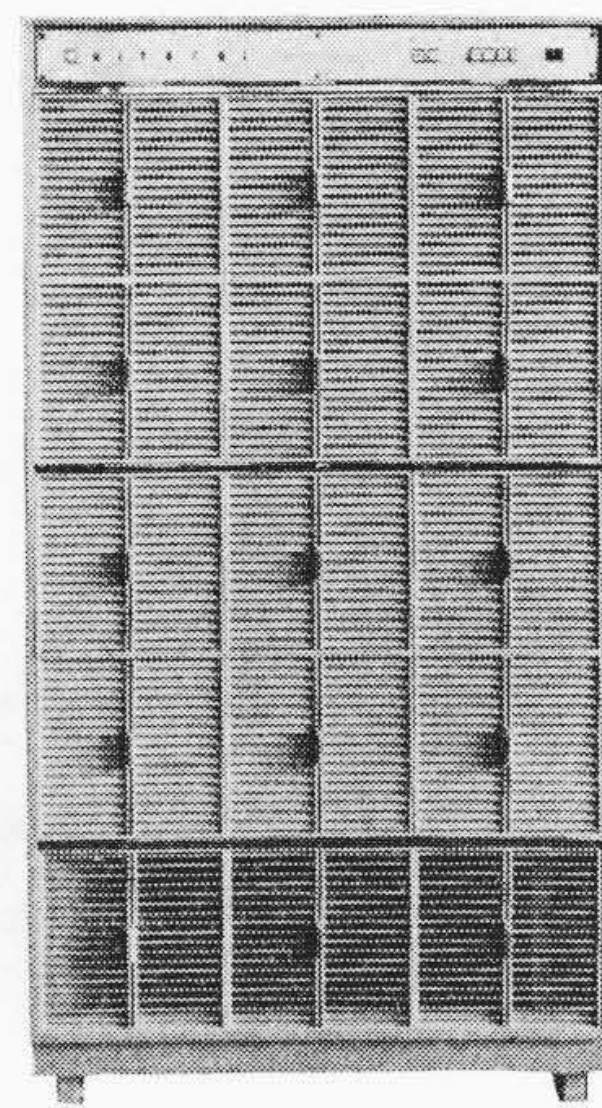
SH-PT 1000 形に排水バルブを内蔵し、ホースを1本にしてさらに操作性の向上を図った標準形である。ソープスタンド付パネルには洗濯時間が合わせやすい横行ダイヤルを採用し、動作切り替えも日立独特の見やすいインジケータ表示とするなど数々のアイデアがもりこまれている。

(3) SC-AT₃ 形全自動洗濯機

わが国最初の全自動洗濯機として好評を博したSC-AT₁形の構造をさらに合理化し、取扱性を向上させた改良形である。おもな改良点は駆動機構部の簡易化と防振支持方式の改良とにより同



第11図 FC-531 形
ファミリークーラ



第12図 FC-731 形
ファミリークーラ

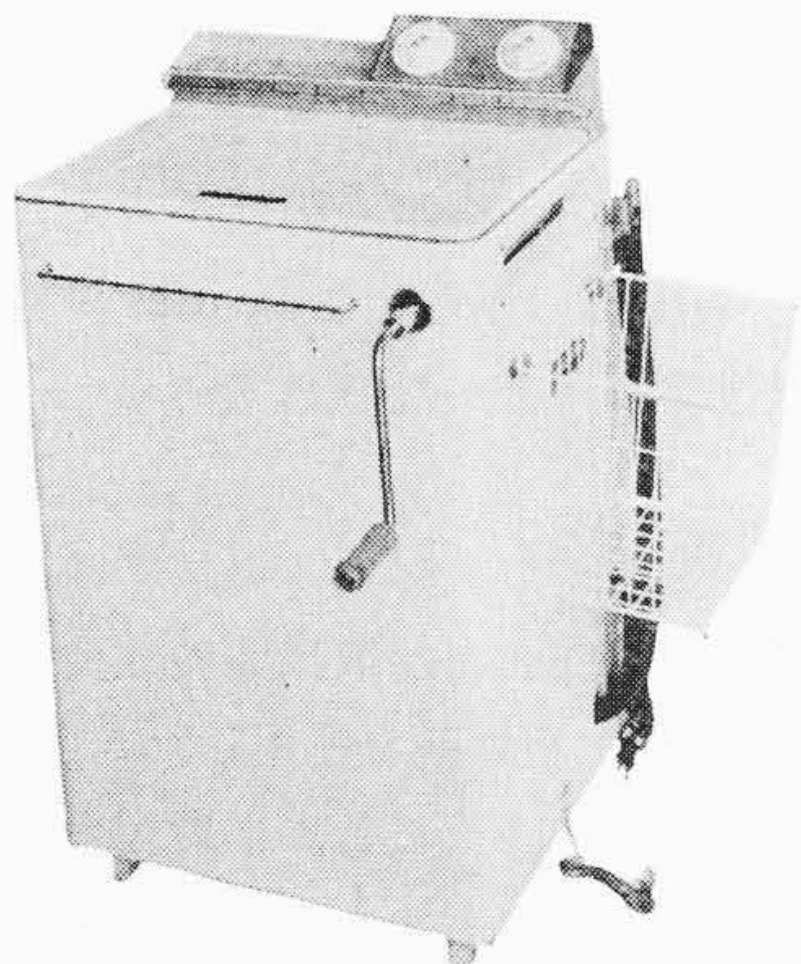
じ洗濯容量で約25%の小形軽量化を行なったこと、二重槽構成により点検修理を容易に行なえるようにしたこと、自動プログラムの制御回路の改良により洗濯時間の調整を可能とし、かつ洗濯所要時間を10分間短縮するなど一段と便利さを増したことである。

(4) SC-PT₁ 形一槽式脱水洗濯機

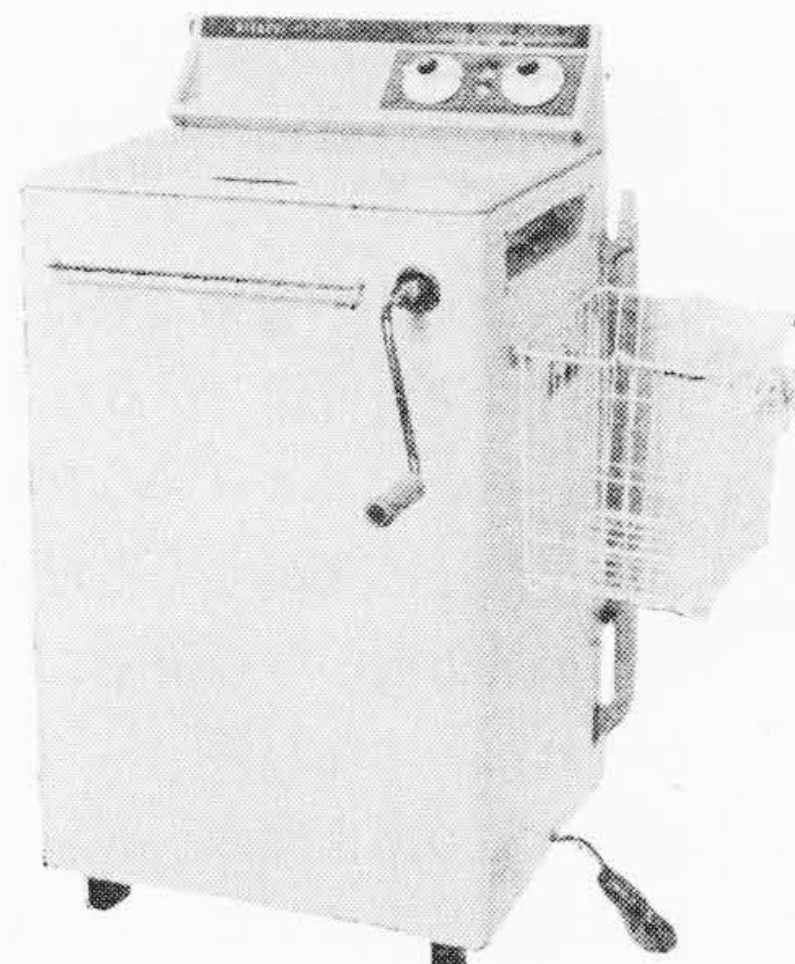
同じ槽で洗濯と脱水を続けて行なえる高級形である。特に補助パルセータを備えた二重渦巻式で、脱水性能がよく、振動騒音が小さいなど性能面ですぐれていると同時に、スイッチ、クラッチ、バルブを連動して操作を簡単化し表示も見やすい横行ダイヤル表示にするなど、取り扱いの面でも最も進んだ設計となっている。

13.1.5 電気掃除機

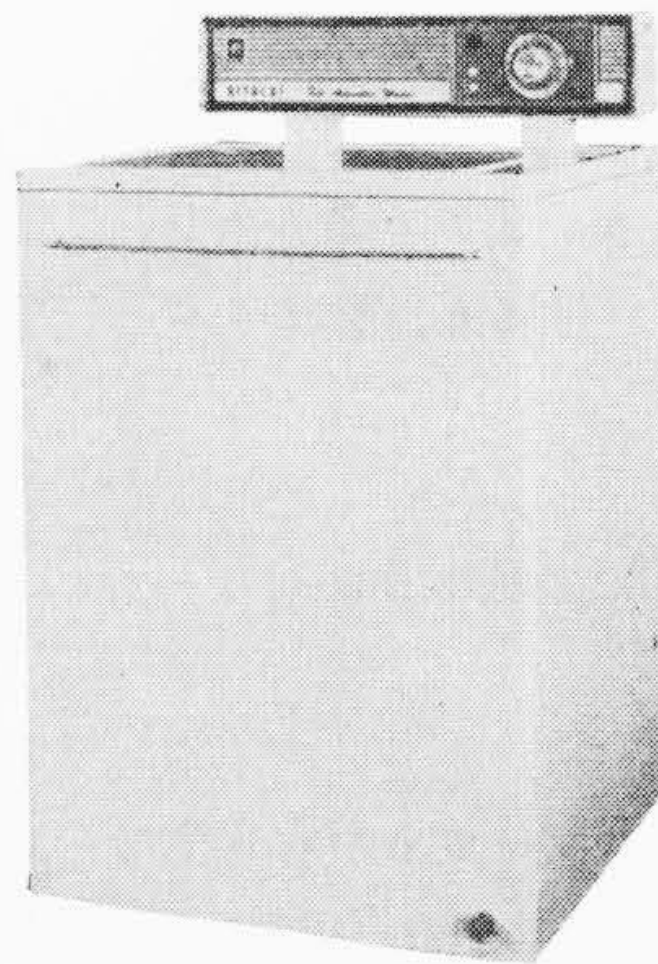
38年度はホース内蔵式手もとスイッチを主流機種に全面的に採用



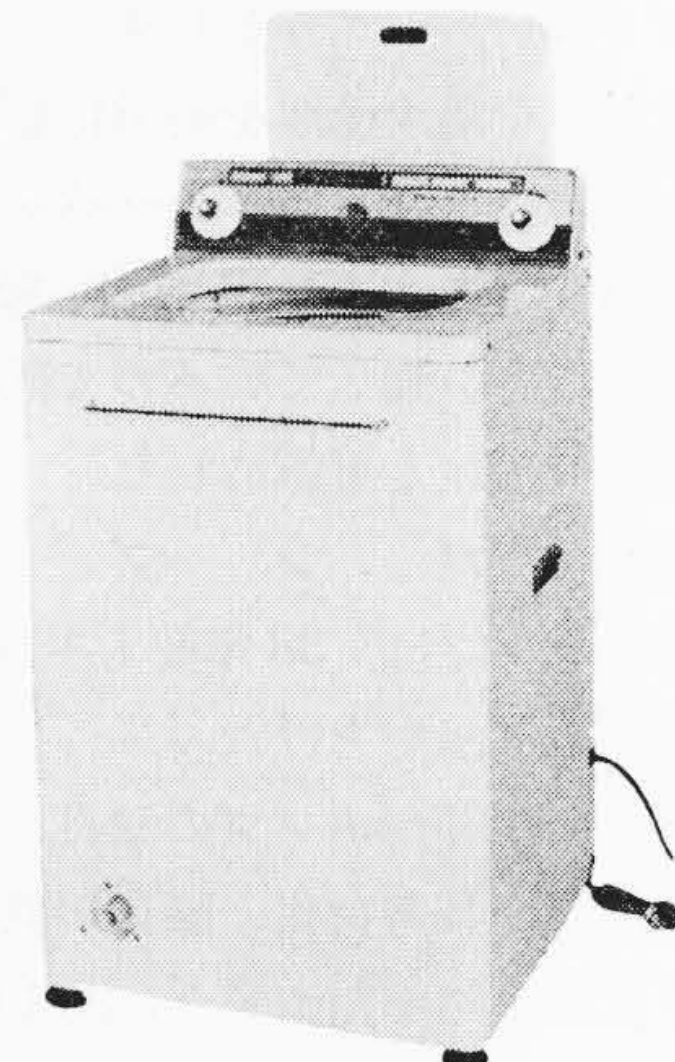
第13図 SH-PT1000 形
二段水流式洗濯機



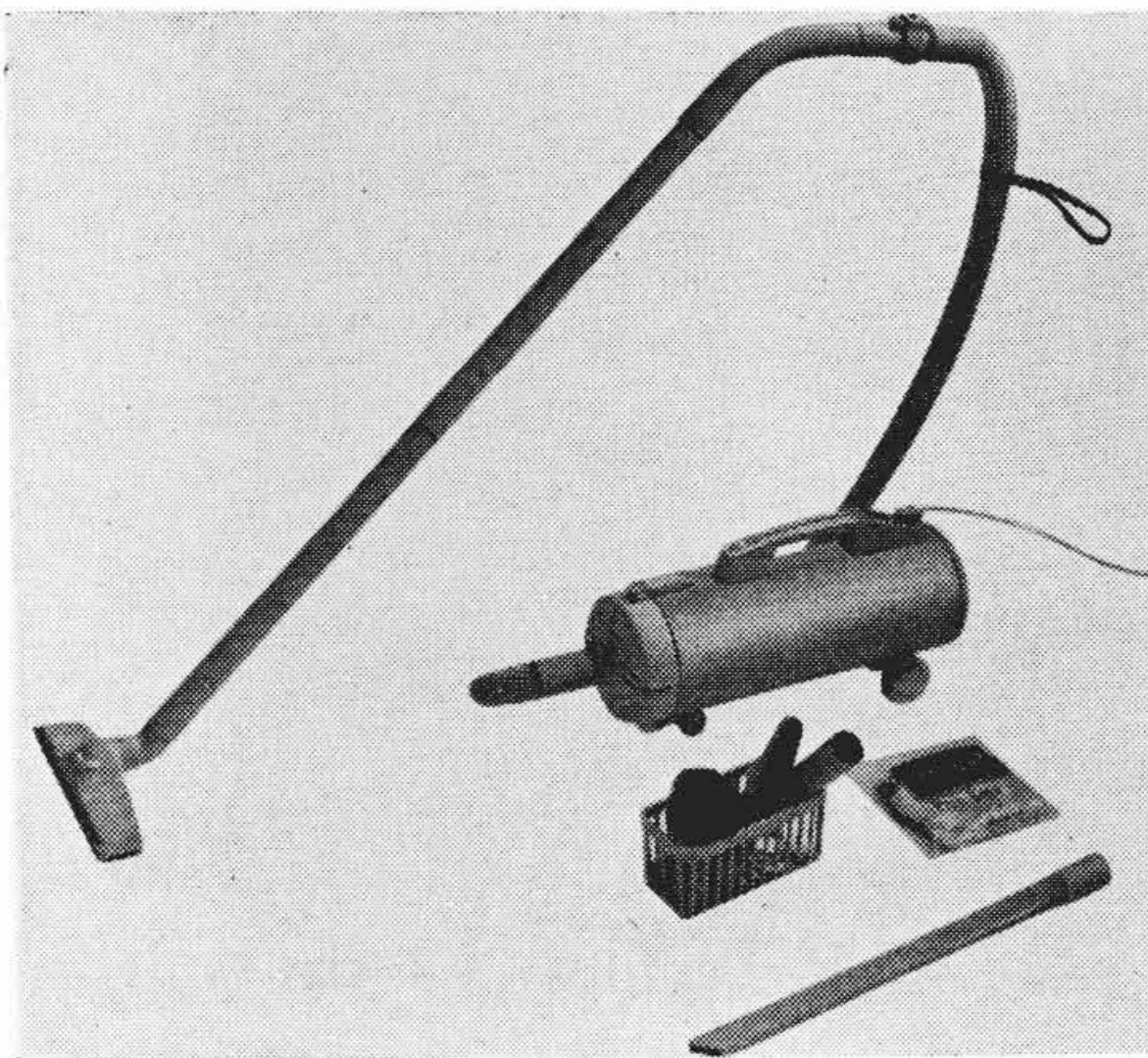
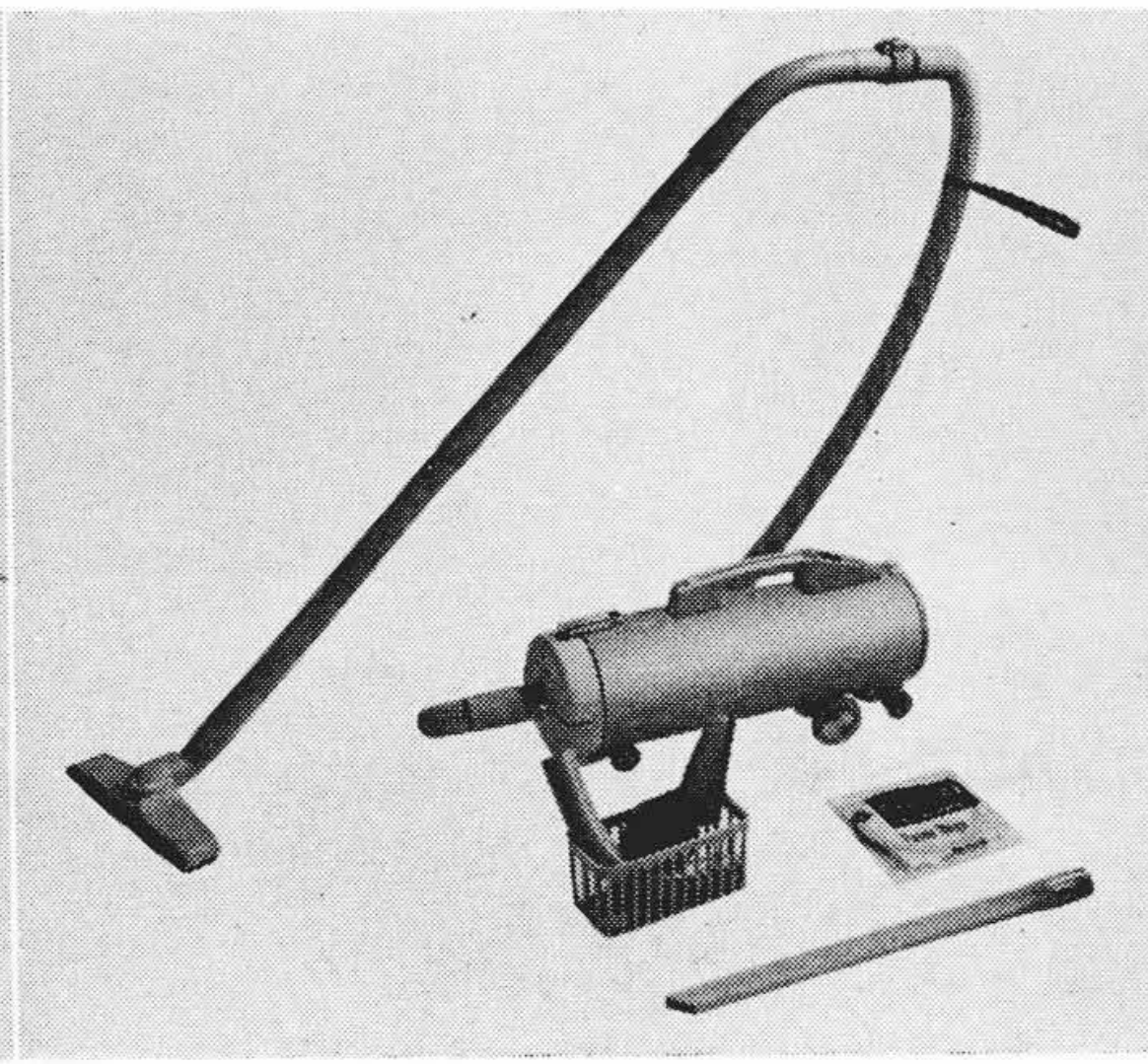
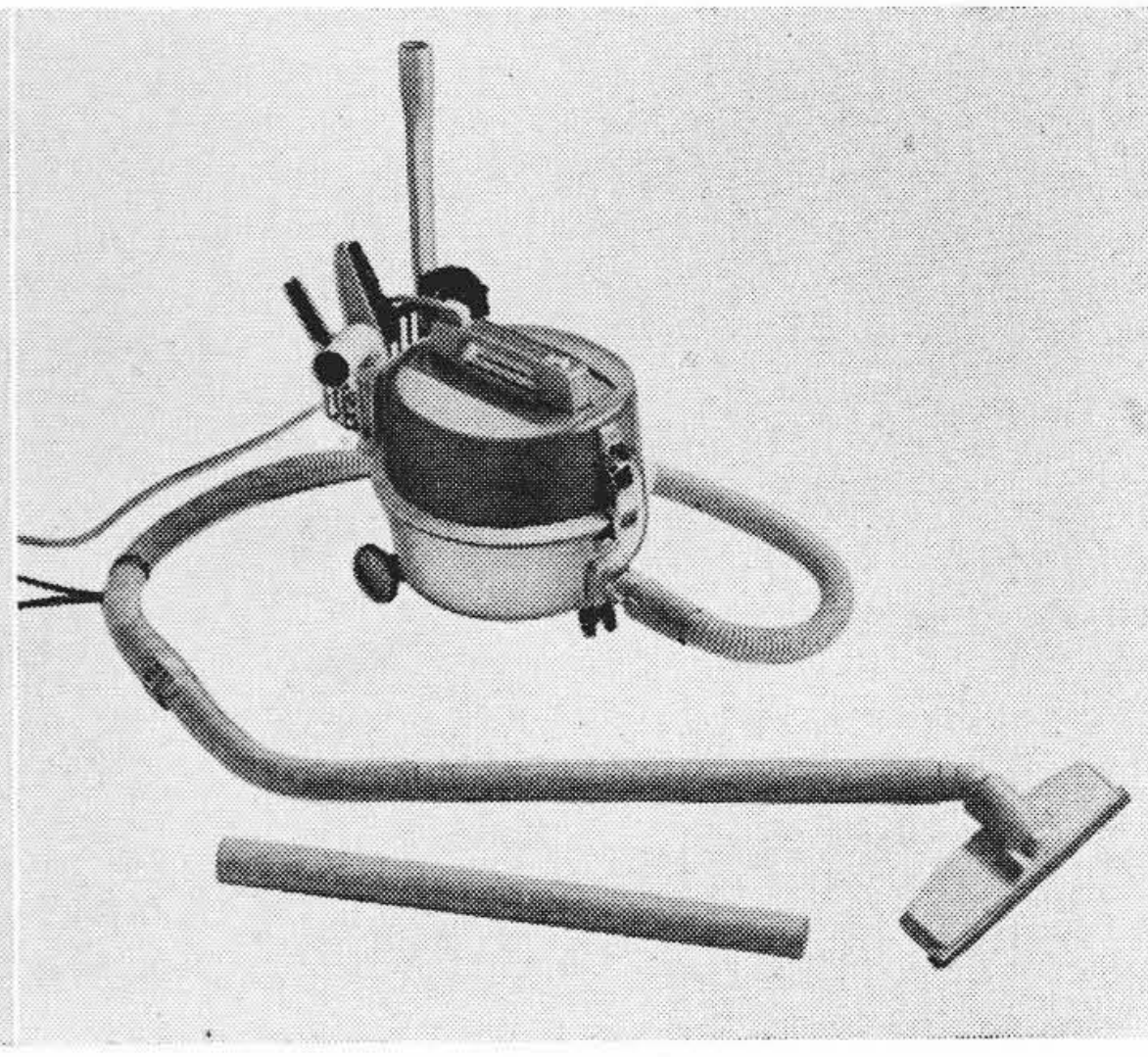
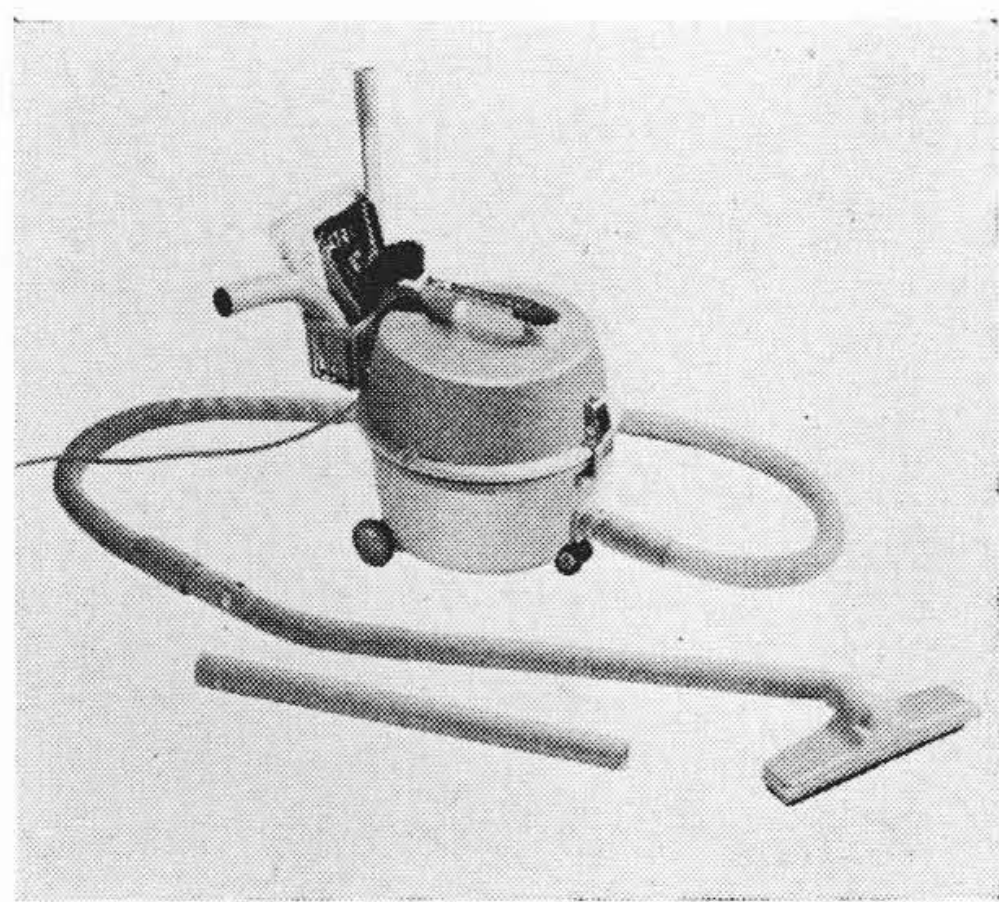
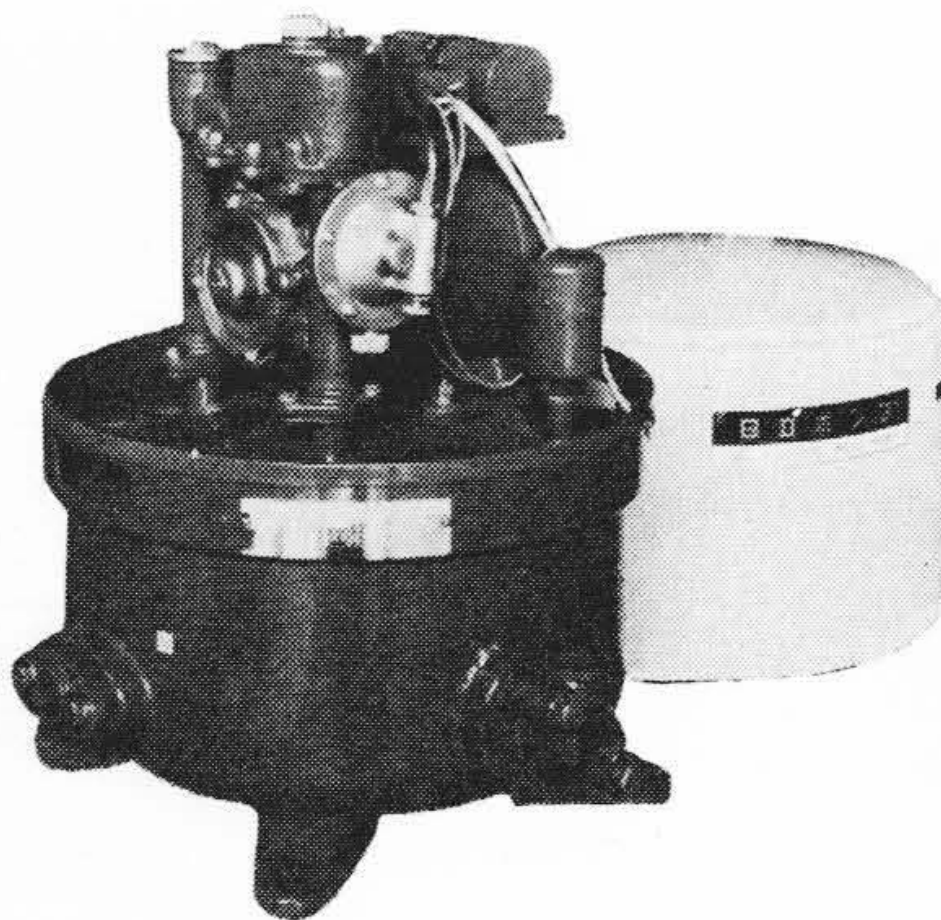
第14図 SH-PT1100 形
二段水流式洗濯機



第15図 SC-AT₃ 形
全自動洗濯機



第16図 SC-PT₁ 形
一槽脱水洗濯機

第 17 図 R-H₃₀ 形ヒッターバック第 18 図 R-H_{15C} 形ヒッターバック第 19 図 C-V₅₅ 形ヒッターバック第 20 図 C-V₆₀ 形ヒッターバック第 21 図 WT-P₁₂₂ 形浅井戸ポンプ第 22 図 JT-P₁₅₂ 形ジェットポンプ

したこと、およびコードリール付シリンダ形、450 W 強力ポット形を新たに開発したことにより、品質の向上と機種種の充実を図った。

(1) R-H₃₀ 形ヒッターバック

絶縁トランスを介して 24V のリレー電源を設け、リレーで主回路を操作する方式を採用し、リング状のスライドスイッチと合わせて独得のホース内蔵式手もとスイッチを完成した。また集塵(じん)袋を大形にして集塵特性を改善した。

(2) R-H_{15C} 形ヒッターバック

R-H₃₀ 形の姉妹品でコードリール付のデラックス形である。コードリールは新たに開発した弾性ビニルキャブタイヤコードと、摩擦ローラによるコードガイド方式とを組み合わせ、従来品に比しコード引き出しの操作を著しく軽快にした。

(3) C-V₅₅ 形ヒッターバック

ブロワ部の改良により吸込力を一段と向上させ、また日立独得の「スピードちり落とし装置」を本体に内蔵し、フィルタに付着したちりを落とす操作を簡単化し取扱性を改良した。

(4) C-V₆₀ 形ヒッターバック

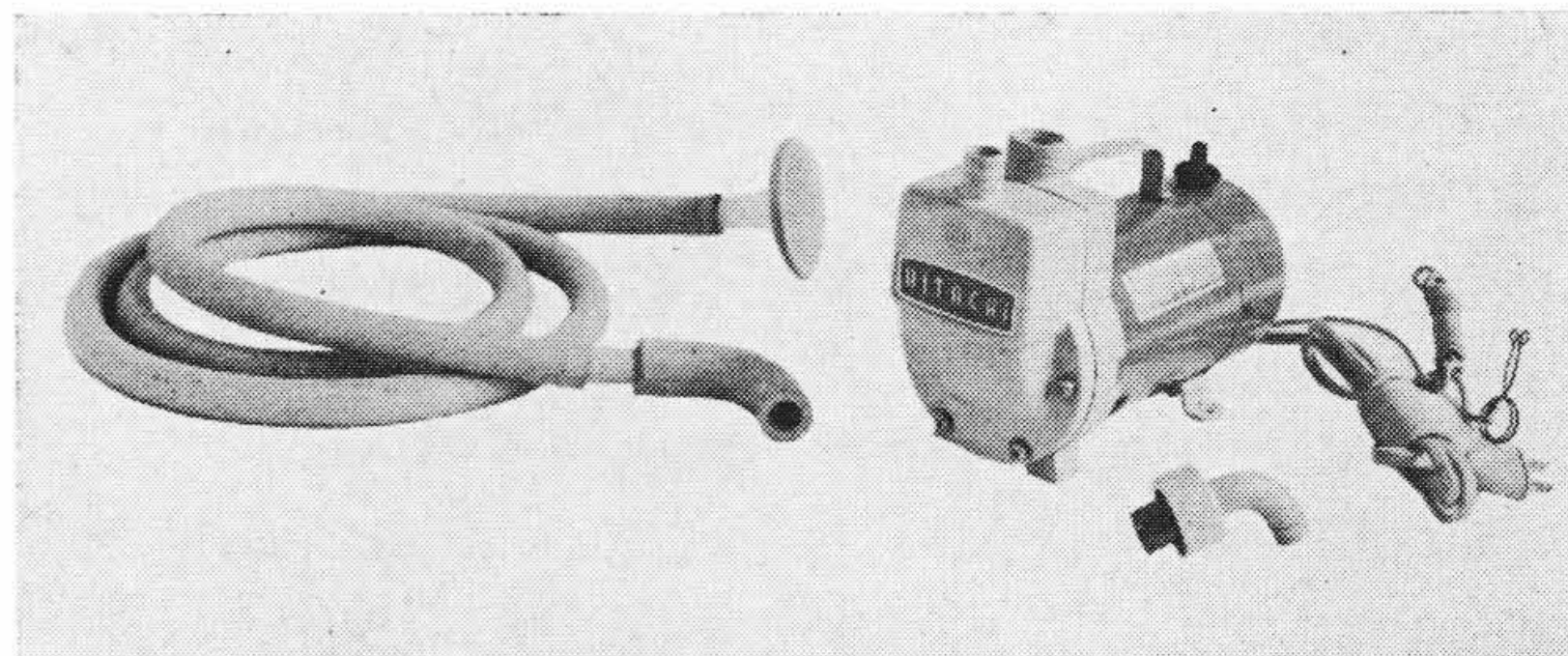
消費電力は 450 W で強い吸込力と大きい集塵容量を有し、二重消音装置を備えているので低音である。付属延長管は 3 本として高所の掃除も可能にした。

13.1.6 ポンプ

井戸ポンプは、38 年度も主流品を中心に各種改良が行なわれ、いっそうの進歩をとげた。

(1) 浅井戸ポンプの改良

製品の長寿命化、騒音の低減、ポンプ据付工事の容易化など、多数折り込んだ改良が、浅井戸ポンプ主流品(80, 125 および 200 W ポンプ)になされた。たとえば、圧力開閉器には日立独特の早切り機構が採用され、小形で音も小さい上、寿命が一段と向上し

第 23 図 C-P₃₃ 形ハンディポンプ

た。また自動空気補給装置は、黄銅材料の使用や、ダイヤフラム形状の合理化で長寿命となった。一方圧力タンクには、両側に吐出口が設置され、さらにその吐出口には、それぞれ 5 方向へ自由に配管できるような回転フランジを使用しているの、配管作業がきわめて容易である。

(2) ジェットポンプの改良

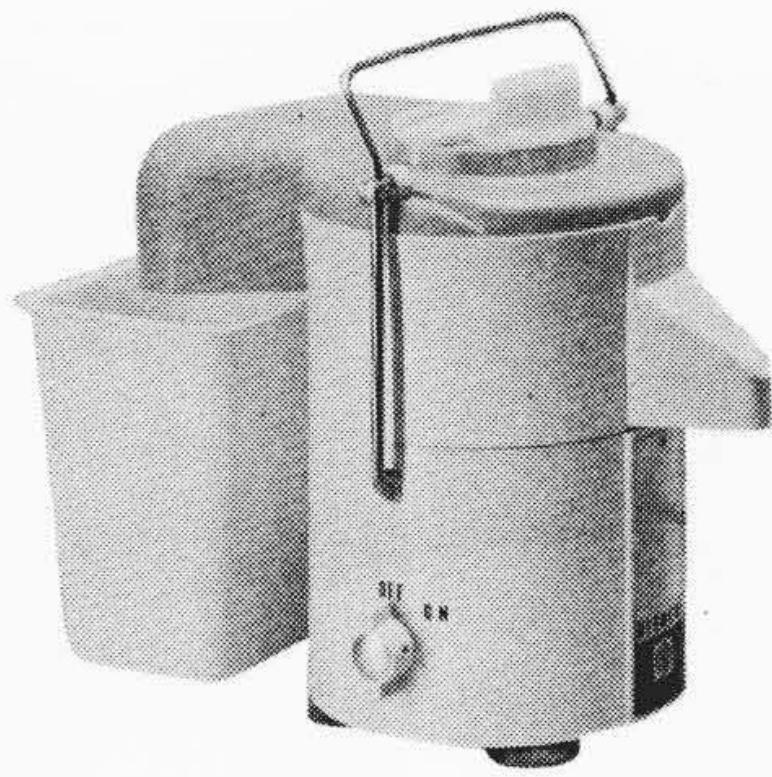
ジェットポンプ主流品(100, 150 および 250 W ポンプ)に対しても、浅井戸ポンプの場合と同一思想の改良がなされた。そのほかコントロールバルブは、圧力計がなくとも概略の調整が可能となり、また小容量のものは、ジェット部の小形化で 80 mm の打込井戸に使用可能となるなど、取扱性の向上がなされている。

(3) ハンディポンプの改良

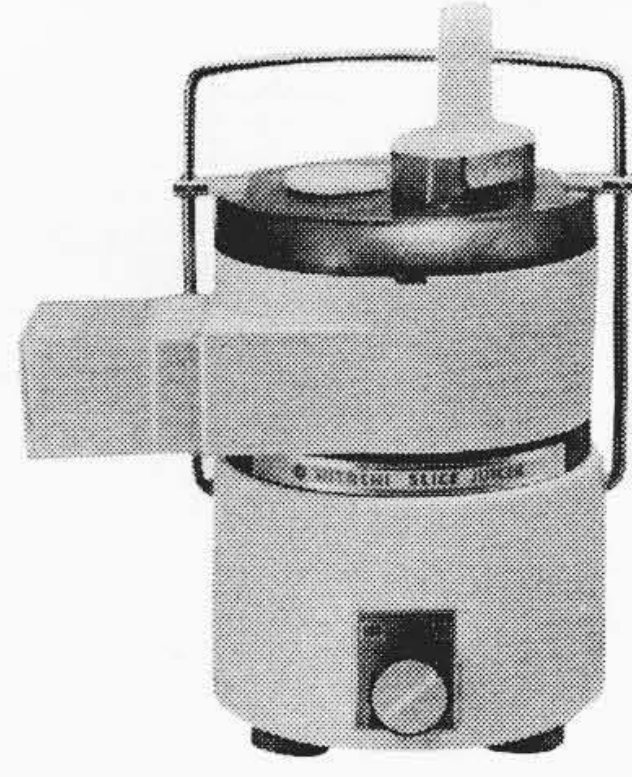
昨年他社に先がけて発売し、好評を博したハンディポンプは、その後各方面からの要望にこたえて、品質および取扱性の改良がなされた。すなわち、ポンプ部分に合成樹脂材料を採用したこと、着脱自在の逆止弁や、ポンプスイッチを設けたこと、小形化の工夫で重量が半減したこと、軸封装置にはメカニカルシールを採用し、漏水防止に確実さを増すとともに揚水特性が向上したことなど、飛躍的な品質の向上をみた。また広範囲の用途に対して、便



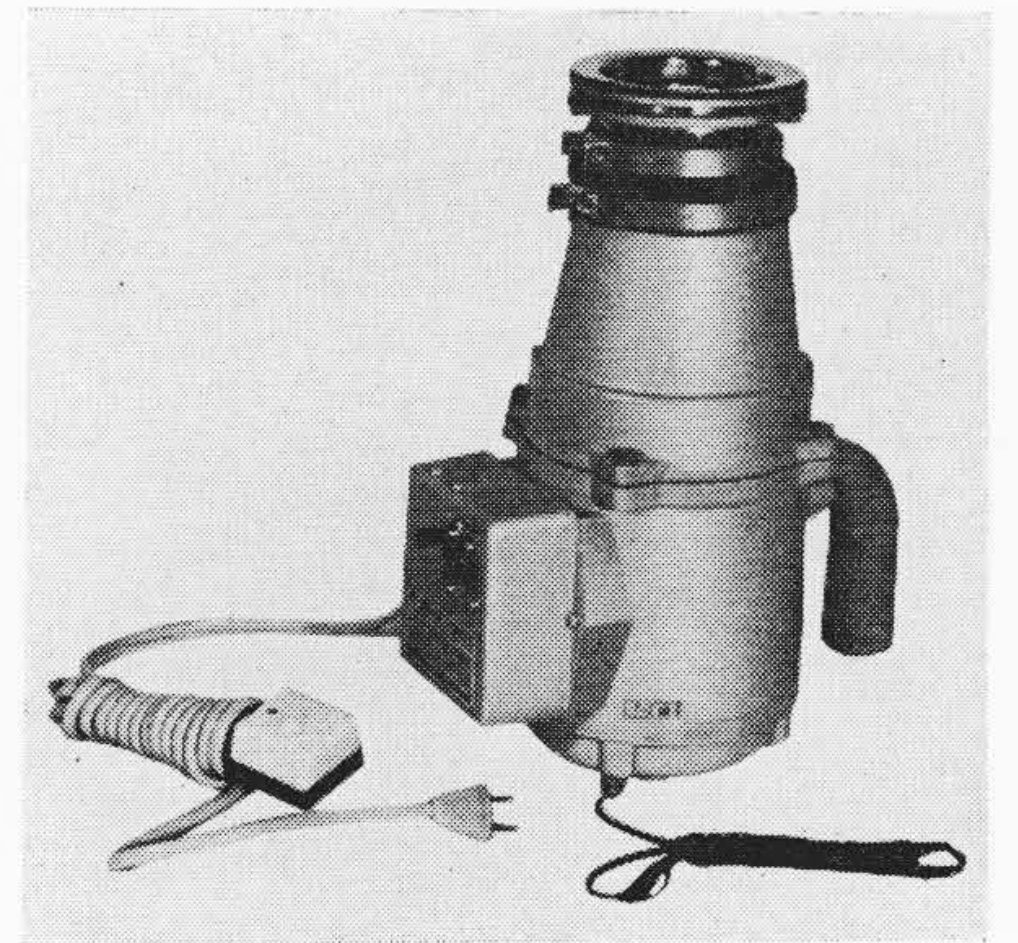
第24図 VA-10形
スーパーミキサー



第25図 OJ-10形スーパー
オートジュースャー



第26図 HJ-100形
スライスジュースャー



第27図 H-U101形ディスポーザ

利に使用願う意味で、シャワー、壁掛金具、噴水ノズル、コック、継手、ホースなどからなる特別付属品も用意されている。

13.1.7 ちゅう房製品

(1) VA-10形スーパーミキサー

万能ミキサーのデザインを更新し、応用部品としてオートジュースャーとコーヒーマイルとを用意して、家庭用のドリンクセットとして発展させた。特に応用部品はその容量の増加と、操作性の簡易化に留意して3点セットとしての一体性を強めた。

(2) OJ-10形スーパーオートジュースャー

特殊設計による遠心カゴの作用で、ジュース液は流出口より、絞られたカスはふたの排出口より自動的に外へ排出されるオートセパレートタイプの構造のジュースャーで、フィルタを必要としないなど、取扱性の向上を図った。

(3) HJ-100形スライスジュースャー

遠心カゴの容量が大きく、かつ連続自動投入口を備えたジュースャーで、応用部品を用いると簡単に連続スライサーとして使用できる。

(4) H-U101形ディスポーザ

台所のくずをまたたく間に細かく粉碎して、流してしまうディスポーザは台所合理化の必需品である。35年度に発売したMGK-10形に引き続いて、38年度は一般家庭用として、出力100WのH-U101形の完成をみた。本機はカッタにスイングハンマ方式を採用し、誤って金属片や布が混入しても電動機の停止をほとんど起こさず、また市販のステンレス流し台の排水口に、そのまま取り付けられるなど大幅に改良を加えたものである。

13.2 冷蔵庫およびルームクーラー

家庭電気品の花形である冷蔵庫は、本年も非常に好評裏に完売した。キュービックタイプ、パネコンと業界に大きな刺激を与えつつ、他社をリードしてきた日立冷蔵庫は、本年もパネコンクッキングのブームを巻き起こし、クッキングテーブル、霜とけ水自動蒸発装置、フルキャビネット、バターコンディショナ、万能バスケットなど数々のメリットを備えたR-103Aの代表機種をはじめ全製品が市場の絶大な好評を博した。

本年はさらに、小形のR-063がきわめて好評で、R-103Aとともに生産途上において増産を行なった。日立R-103Aは、6月17日パリのルーブル宮殿で開催されたICSID (International Council of Societies of Industrial Design) に、日本代表として出品され、絶大なる好評を博した。また38年4月には日立製作所では台所改善の先端を切って、現用流し台その他の規格にマッチしたR-084を開発、発売し、業界の注目を浴びた。以上のように日立冷蔵庫の信用は、本年もますます強化され業界をリードした。

ルームクーラーは、主流6機種とも好評で、日立ルームクーラーの性能、デザインの優秀さが市場に認められ売れ行きも好調で最盛期には、品不足をきたし、39年度に販売を予定していた新製品も繰り上げ販売した。

ルームクーラーの普及率はまだきわめて低く、一般家庭に普及するのは、むしろこれからであるが、日立ルームクーラーは、63年形の好評を基礎とし冷却性能、騒音、デザイン、取り扱いその他あらゆる面に工夫改善を行ない、冷蔵庫同様業界をリードしてゆくつもりである。

13.2.1 普及形冷蔵庫 (R-063形)

ホテル、旅館などの個室用、また独身者、新婚向き小人数家庭用として内容積60ℓ程度の小形冷蔵庫の需要は非常に多く、すでに37年度製品R-062形は各方面から非常に好評を博した。

38年度製品R-063形はこれをさらにデラックス化させたものである。すなわちトップテーブルにはコンセントを取り付け、クッキングが容易にできるように配慮し、またドアポケット部にはセルフターン式バスケットを設置してビールなどの出し入れを容易にし、さらに庫内温度表示板を取り付けるなど種々工夫をこらした。

また意匠的にも長手形ハンドルを採用し外観のスマートさをひきたてるようにした。

このように低価格にもかかわらず機能意匠ともデラックス化し前年度を大幅に上回る需要をみた。

13.2.2 パネコン形冷蔵庫 (R-103A形, R-103D形, R-123A形)

37年度は日立独特のパネコン形冷蔵庫を開発し世の注目をあびたが38年度はさらにこれに改良を加え機能、意匠ともに多くのニューアイディアをもちこんで“冷やす”“貯える”そして“料理する”という三つの機能をそなえた完ぺきなパネコン形冷蔵庫とした。その特長のおもな点を述べると次のとおりである。

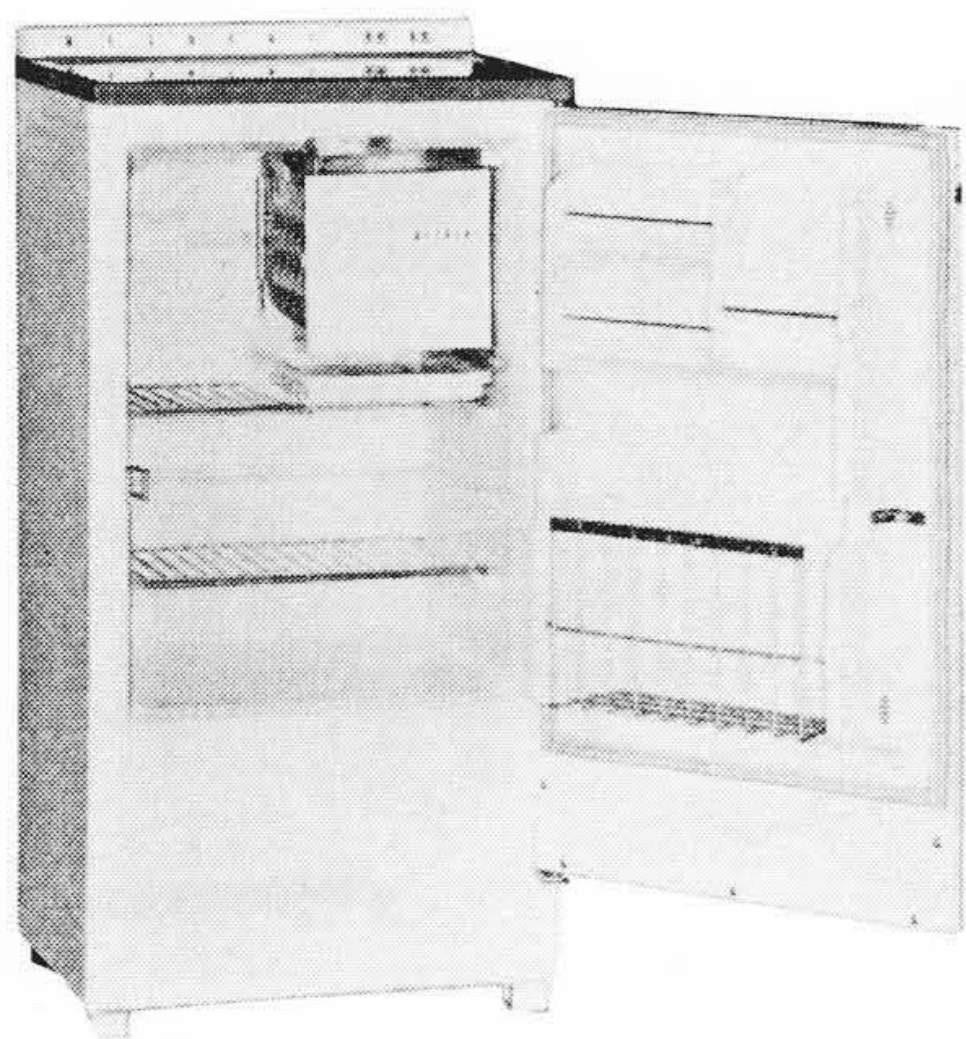
(1) パネルコントロール方式 (パネコン)

従来パネルにはドア開閉ボタン、自動霜取装置、庫内温度調節ダイヤルとが集中的に設置されていたが、38年は庫内温度調節をいっそう便利ならしめるために周囲温度と関連して庫内温度を調節する周囲温度表示器をとりつけた。これによって庫内の適温が容易に得られパネコンの機能をさらに完全なものとした。

さらに、ドア開閉装置、施錠装置もこのパネルにもうけて操作部分をすべてパネルに集中させ、パネコンの機能的な美しさを示す白色のダイアカットの意匠とともにいっそう洗練されたパネコン冷蔵庫とした。

(2) コンセント付クッキングテーブル

冷蔵庫の上面を有効に使用するために38年の製品にはコンセント付クッキングテーブルを取り付けた。テーブルには熱に強く汚染のないヒッターを使用しているの、背面にもうけたコンセントとともに電気釜、トースターなどの調理用電気器具が使用で



第28図 R-063形冷蔵庫



第29図 R-103A形冷蔵庫



第30図 R-103D形冷蔵庫

きる。これによって“冷やす”“貯える”という機能に加えて“料理する”という機能を持つようになった。

テーブルは水色の御影石模様であり台所調理品とよく調和した近代的な美しさを有している。

(3) 自動霜取り、自動排水蒸発装置

霜取方式はいつでもできる押ボタン式で除霜中はパネルに霜取表示ランプが点灯し、霜取完了は自動温度復帰サーモスタットによって行なうので霜が残ることもなければ、庫内温度が上昇することなく、またオフサイクル式であるため約20%の電力が節約できる経済的な方式である。一方霜とけ水は下部に設けた加熱蒸発皿に排水し蒸発させるようになっているので霜とけ水を捨てる手間をはぶくことができる。このほか、フルキャビネット、三段切り替えのできるバターコンディショナ、万能バスケット、氷の早くできるアイスノッチなど数々のニューアイディアを盛りこんでおり、市場の圧倒的な好評を博した。なお100lのデラックス形であるR-103D形には電動モータ駆動の霜取り兼用のキッチンタイマーを設けてある。

13.2.3 テーブル形冷蔵庫 (R-103T形, R-123T形)

テーブル形冷蔵庫はその名称のようにテーブルとしてはまったく完全なものを備えている。すなわちこのテーブルは表面にヒッターを張った合板のもので周囲は豪華なアルミわくで押えられており、熱、汚染などに対して強いのはもちろん合板であるため、その上に物を落したり重いものを置いたりしても全然変形することがない。

また後部にはコンセント付わくを設けて電気器具の使用が便利にできるように配慮されているので調理台として最適である。

ドア開閉機構としてはドアパッキングの中にたわみ性の磁石をそう入したものを採用した。すなわちこの永久磁石はヒンジ側を除く三辺にそう入しヒンジ側には復元力の強いパッキング構造を採用して密閉を完全なものにしている。

磁石の力は据付条件やドア、食品などの重量を考慮して設定されており、合成樹脂製ドアパッキングと同様永久的なものでいつも気持よく開閉できる。

また、この冷蔵庫には霜とけ水を受ける水入れと肉入れ用中皿を設けた露受皿を備えている。

水入れは簡単に取りはずしができ、卵ケースとして使用できるほか、そのあとにオシボリなどを入れておくのに使えるよう工夫されている。これらのほか、圧縮機の小型軽量化によるフルキャビネット、三段切り替えのできるバターコンディショナ、ゆび一本で簡単に操作できる万能バスケット、自動霜取装置など魅力の数々を備えている。

13.2.4 ちゅう房形冷蔵庫 (R-084形)

キッチンタイプ冷蔵庫は業界に先がけて日立がはじめて開発した

機種で世の注目を集めた。

これはちゅう房器具寸法がJIS化されており、流し台、調理台の普及が進んできていることに伴い外法寸法は流し台、調理台などと全く同一の寸法を採用して設計したもので背面、側面が壁とか流し台、調理台などで密着して使用される過酷な条件にも十分耐えられるよう製作されている。

冷蔵庫上面に高級18〜8ステンレステーブルを設置し、また後部にコンセント付操作パネルを設置してクッキングと操作が容易にできるように配慮されている。

さらに自動霜取、自動排水蒸発、フルキャビネットなど台所で生きた役割を果たすもろもろの機能を備えている。

調理台や台所品との調和を考慮した洗練された意匠と相まって非常に好評を博している。

13.2.5 大形冷蔵庫

業務用あるいは家庭用デラックス大形品として便利性を主眼に設計されたもので、各機種それぞれの特長を有している。

(1) R-163形, R-263形

ロングハンドルの豪華なデザインで、霜とりから排水までまったく手間のかからない完全自動霜とりや、いつも食べごろのかたさに調節できるバターコンディショナ、業務用として特に必要とされる強力な冷却力を発揮する“ICE”ノッチなどを備えた標準形である。

このほかに、R-163形は“フルキャビネット”と称して冷蔵庫の下までタッブリ使える構造が採用されており、そのスペースには多湿形スイングアウト式の万能バスケットが装置してある。

(2) R-303形

旅館やホテルなどの営業用に適した冷凍室つき2温度式冷蔵庫で、冷凍室と貯蔵室がそれぞれ別個の冷凍機を有している超特大形である。

3個の引き出し式野菜容器、2段のバター・チーズ入れ、ビン類やカンヅメなどを入れるセルフターンバスケットなどがあって、冷凍食品をはじめ大量の貯蔵物を収納できる。

(3) R-123H形

今までの冷蔵庫と形を異にした横形で、ホテル、バー、応接室のカウンターなどの上あるいは下における豪華形である。

両開きのドアは上面からも下面からもあけることができ、壁掛形としても使うことができる。

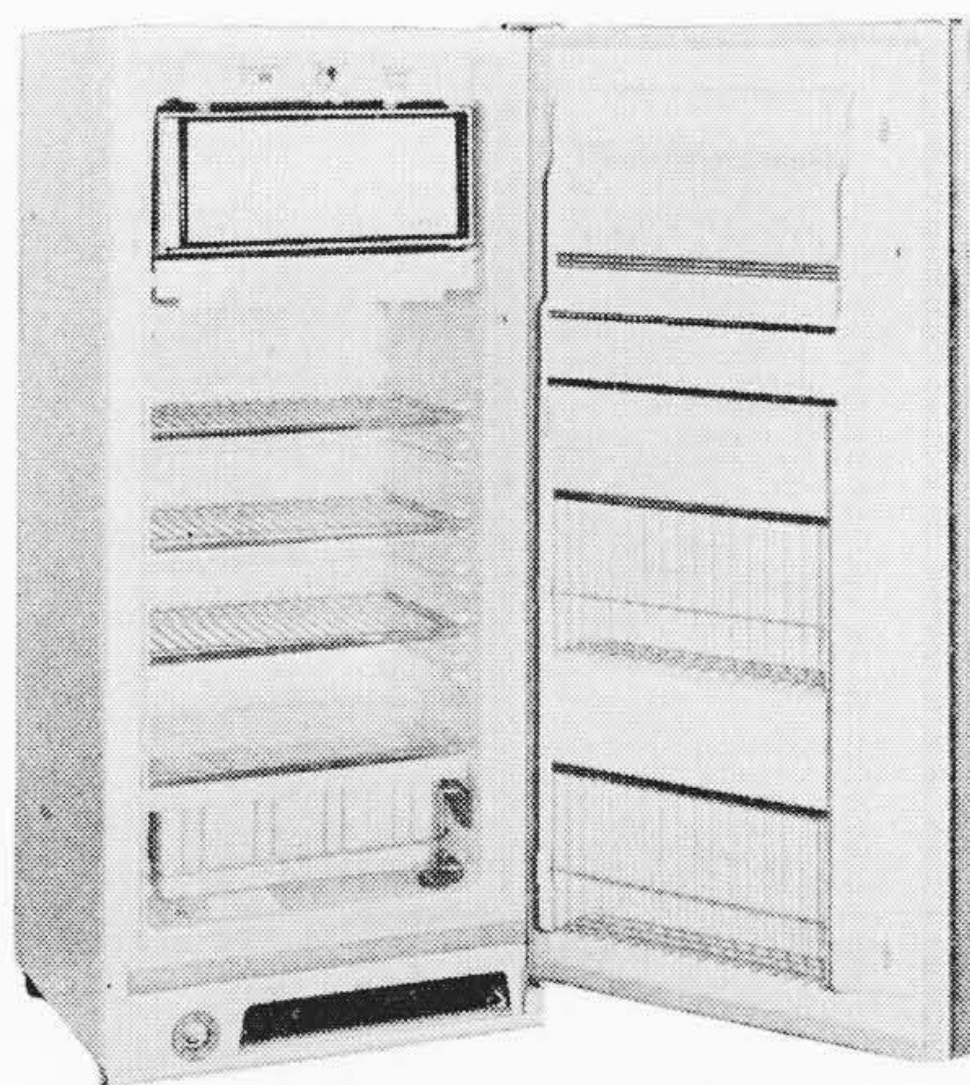
内部には引戸付き野菜戸棚やバター・チーズ入れなどがあり、従来の冷蔵庫と異なった特長を備えている。

13.2.6 輸出形冷蔵庫 (R-123形)

各国の実状を考慮して製作された輸出専用の実用形で、上面に高級メラミン樹脂化粧板“ヒッター”のテーブルを設け、クローム色



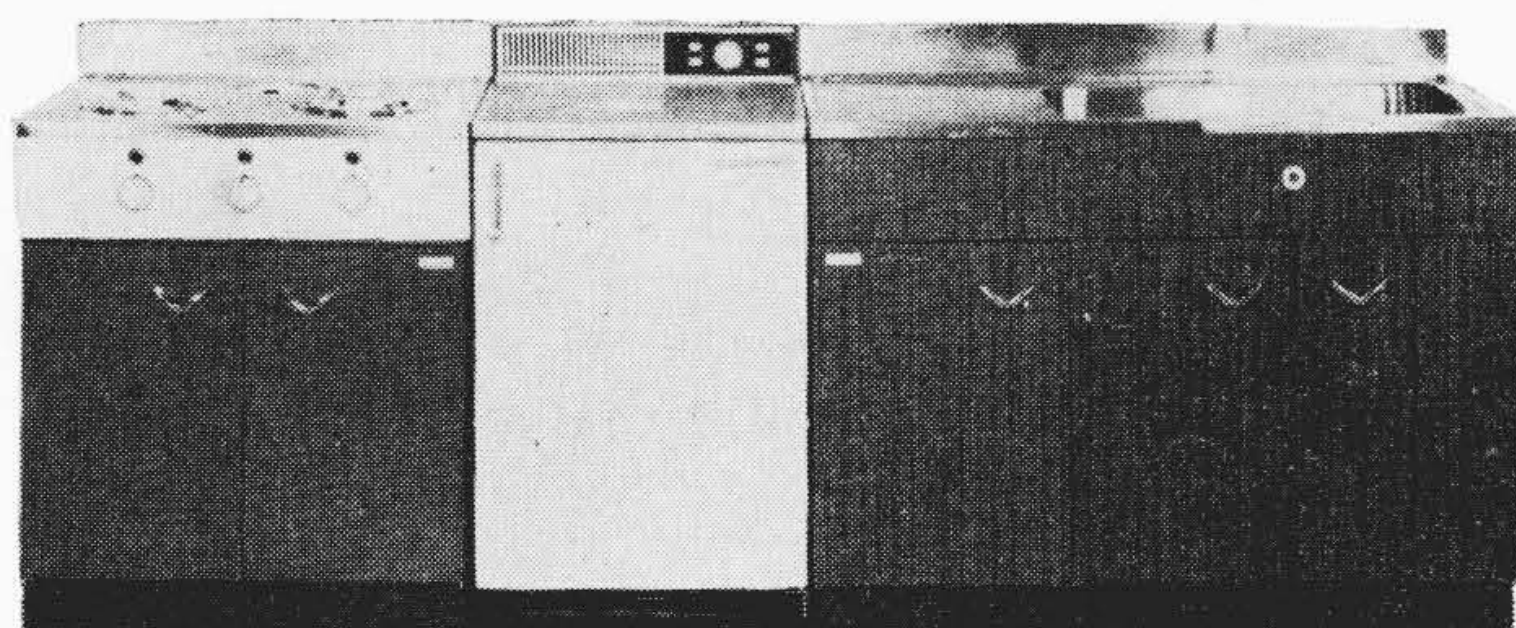
第31図 R-103T形冷蔵庫



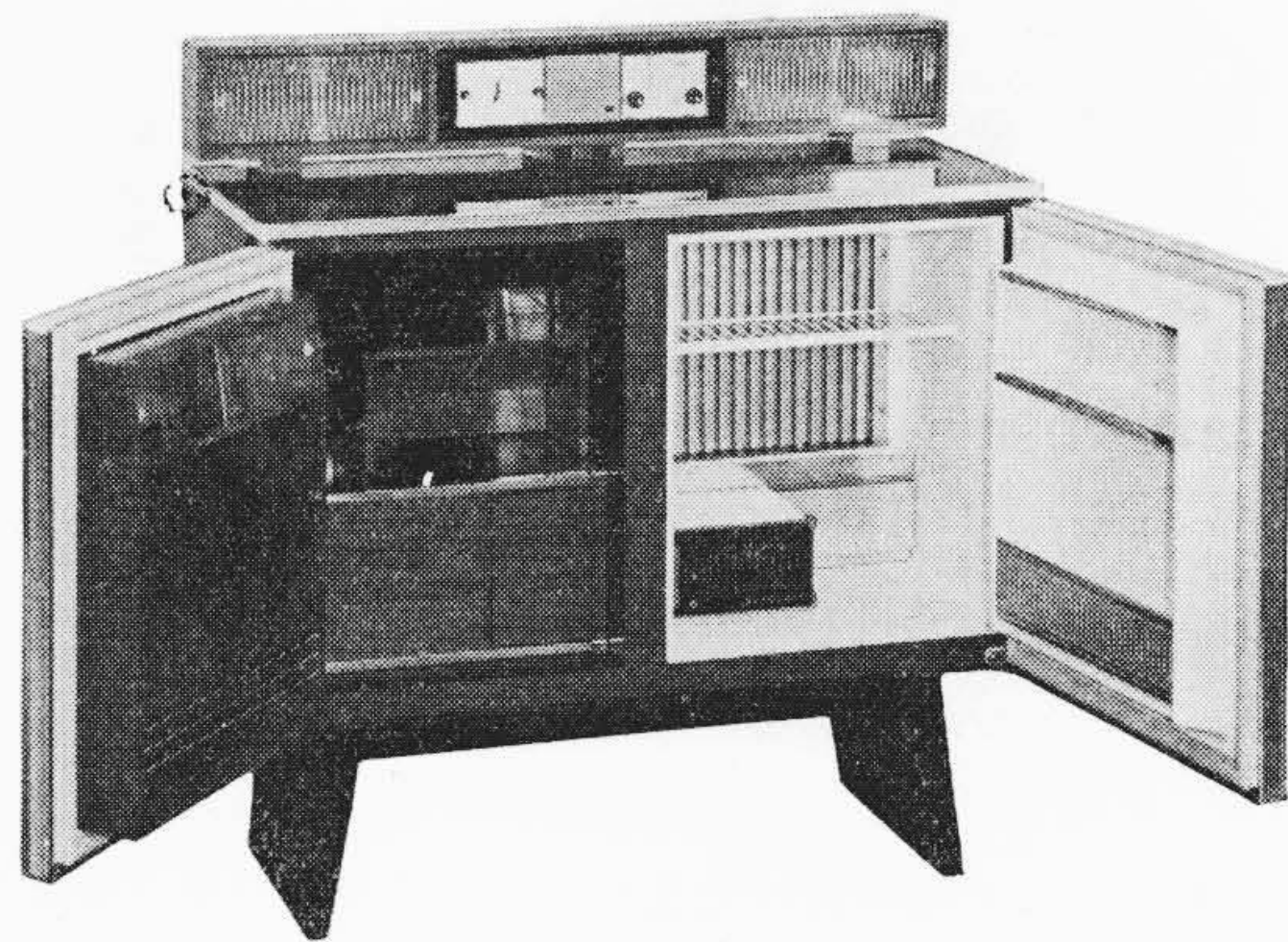
第32図 R-163形冷蔵庫



第34図 R-123E形冷蔵庫



第33図 R-084形冷蔵庫



第35図 電子冷蔵庫

のハンドルを配して優美なデザインとなしたもので、世界各国にて好評を博しているので今後大いに期待し得る製品である。

氷のはやくできる“ICE”ノッチつき温度調節器や霜とりの手間をはぶく自動霜取装置などがあり、内箱底部には機械室の縮小をはかってカゴ形野菜入れを設置するなど数多くの特長を備えている。

ドアには8個入りの卵棚をはじめ、ふたつきのバター・チーズ入れや2段のビン棚がある。

また、鍵(かぎ)がついているのでホテルや個室などで使うにも便利である。

13.2.7 電子冷蔵庫

昭和38年4月に開かれた東京国際見本市に展示したものである。意匠は居間あるいは客間に置く調度品としての感覚をとりいれたもので電子冷凍の特長を生かしたデラックスな冷蔵庫でトップテーブルにはトランジスターラジオ、タイマー、コンセントなどが付属している。

内部は冷蔵室、製氷室および貯蔵室の三室からなる。冷蔵室の内容積は32 lで食品を2~3℃に保存し、製氷室は内容積が1.4 lで-20℃以下になり、200 ccの水を90分以内に凍結することができる。また貯蔵室は内容積が36 lで外気温度と同じ温度であり、低温保存を必要としない食品あるいはコーヒーセット、カクテルセットなどの食器類を入れるようになっている。

使用した熱電素子材料は焼結法により製造したものであり、また熱電素子の設計は材料使用量が最も少なくなるようにしてある。

13.2.8 ルームクーラー

'63年形ルームクーラーは業界をさらにリードするため、生産性と品質の向上安定を目標として設計製作されたもので、数多くの特長をそなえている。

以下その詳細を述べる。

(1) デザイン

正面化粧カバーのデザインは洋室にも和室にもよく調和し、落ち着いた配色で、三年間続けて好評を博している。37年形のデ

ザインをそのまま踏襲し、ここに日立ルームクーラーのイメージを確立するとともに、このデザインを構成している吸込グリルのストライプと吐出口の丸形風向板はルームクーラーの代表的な形にあげられるようになった。

(2) 性能

冷房能力がすぐれている点はいうまでもないが、湿度が多い日本の国土に適するよう除湿量が多く、その除湿した水を自動的に霧状にして屋外に処理する点に工夫がなされている。騒音の低下には送風機の形状と吸音機構に工夫がなされ、国内で最も騒音の低いクーラーとしての特長も有している。主要電気部品たとえばモータ、リレーなどはすべて社内製品を使用しており、品質の点で他社をはるかに抜kindでたものである。

(3) 機能

(a) スライドアウト方式・・・外箱だけを窓あるいは壁に固定したまま本体を出し入れできるので据え付け、サービスが容易である。

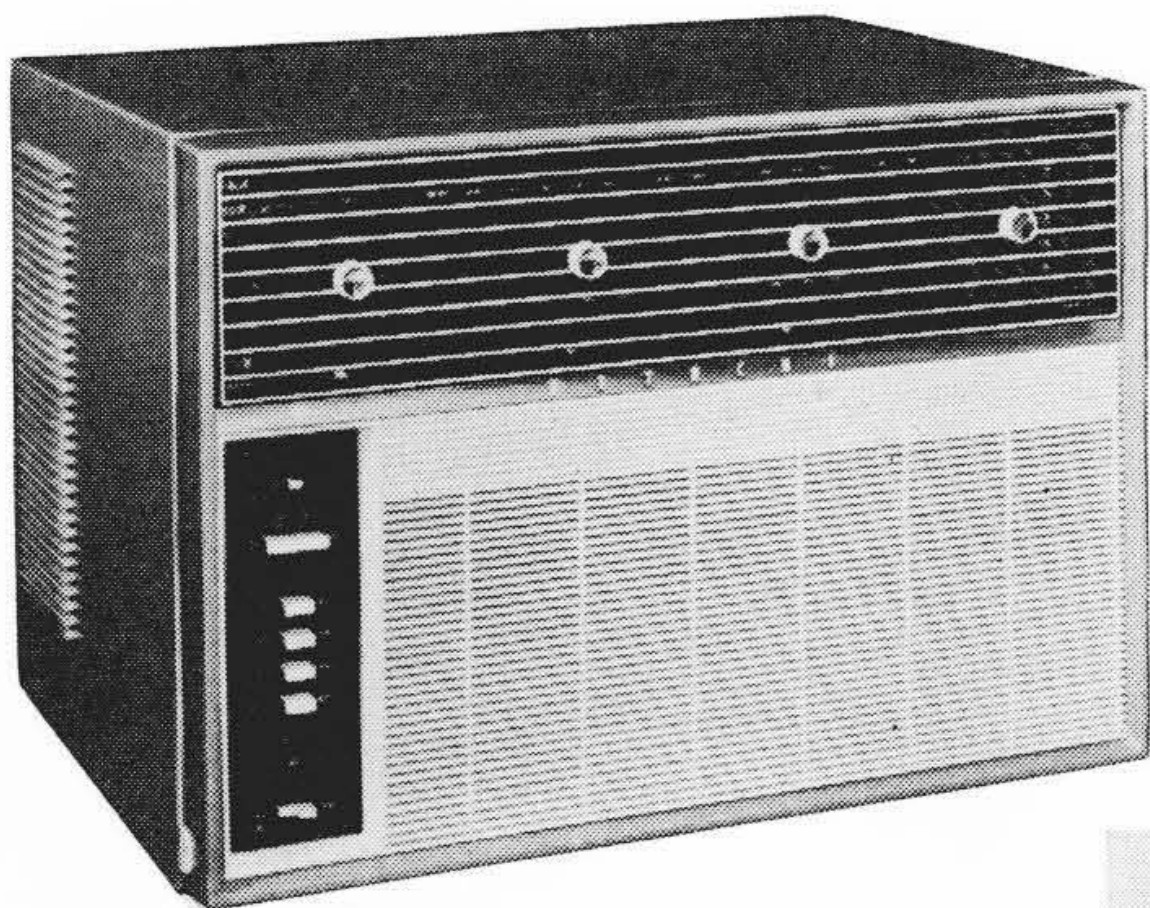
(b) 暖房・・・専用の暖房用電気ヒーターを取り付ければ、スイッチの切り替えで冬期暖房機の役割を果たすことができる。RA-603H形とRA-753TH形はスイッチの切り替えでヒートポンプ運転による暖房ができるようになっている。

(c) リモートコントロールスイッチ・・・寝室とか据え付けの高い所などに便利にしたもので、簡単に取り付けられることと小形で扱いやすいという特長がある。

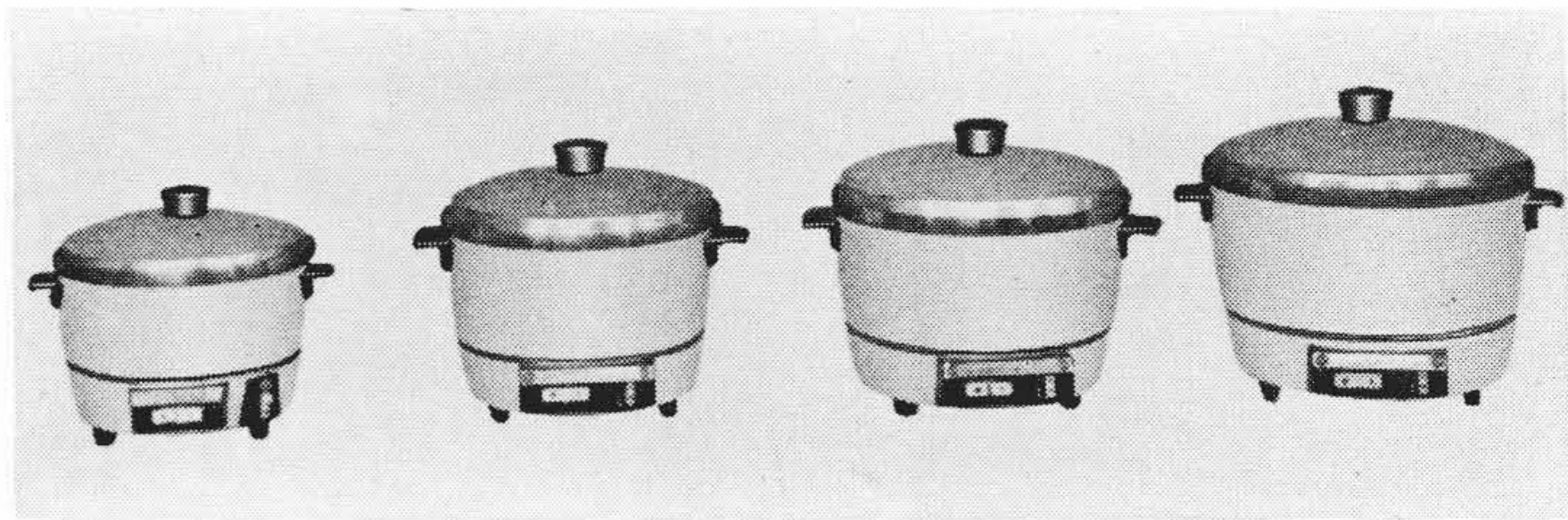
(d) 風量変換・・・送風機は2段の風量変換が可能で夜間いっそう静かに運転できるようになっている。

(e) 排気装置・・・室内の汚れた空気を排出できるもので押ボタンスイッチによって簡単に操作できる。

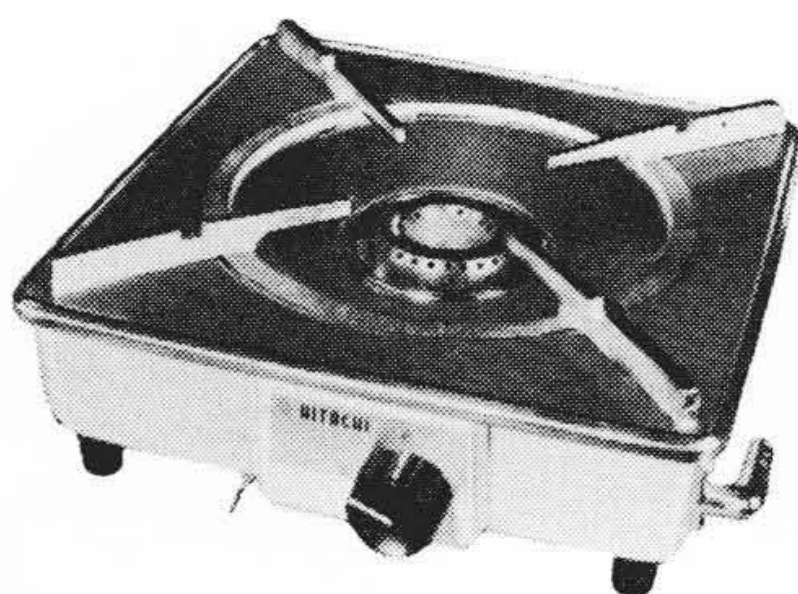
(f) 温度調節器・・・大形のものには温度調節器がついており



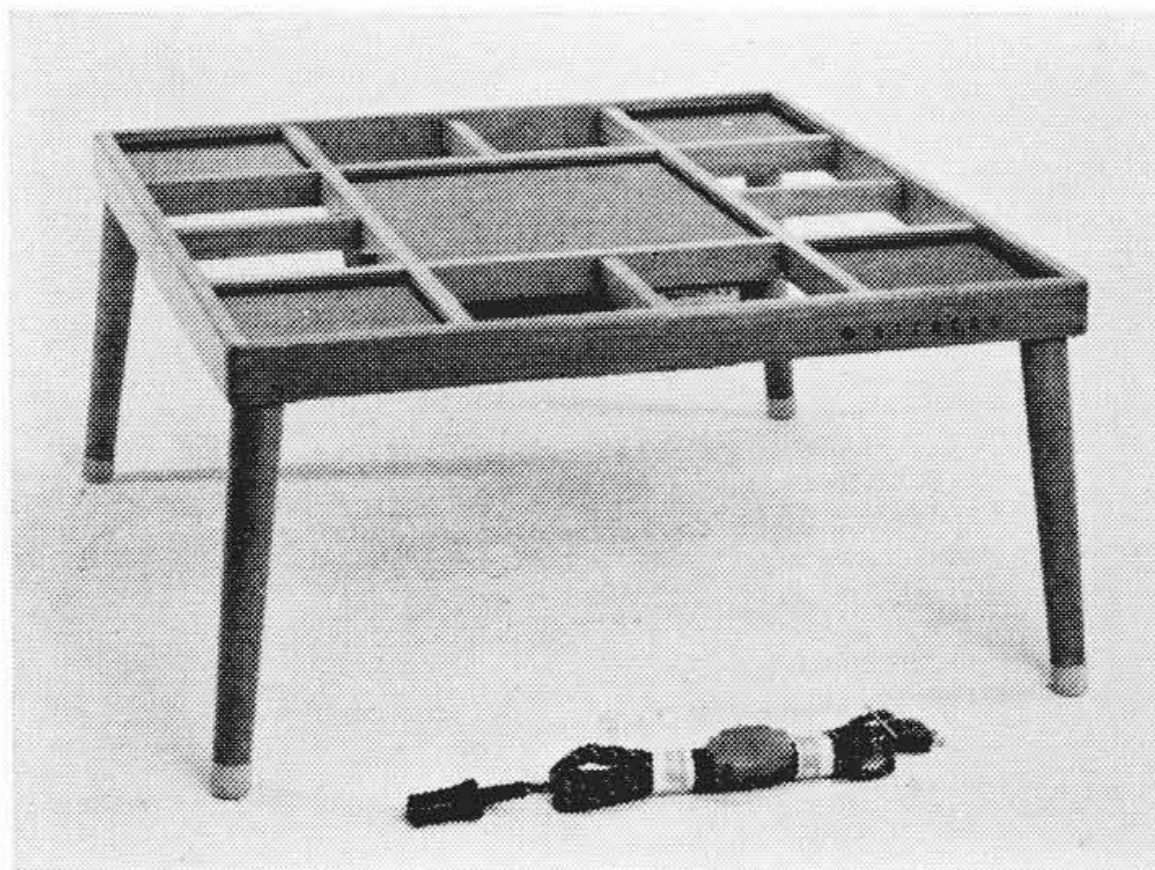
第 36 図 RA-603H 形ルームクーラー



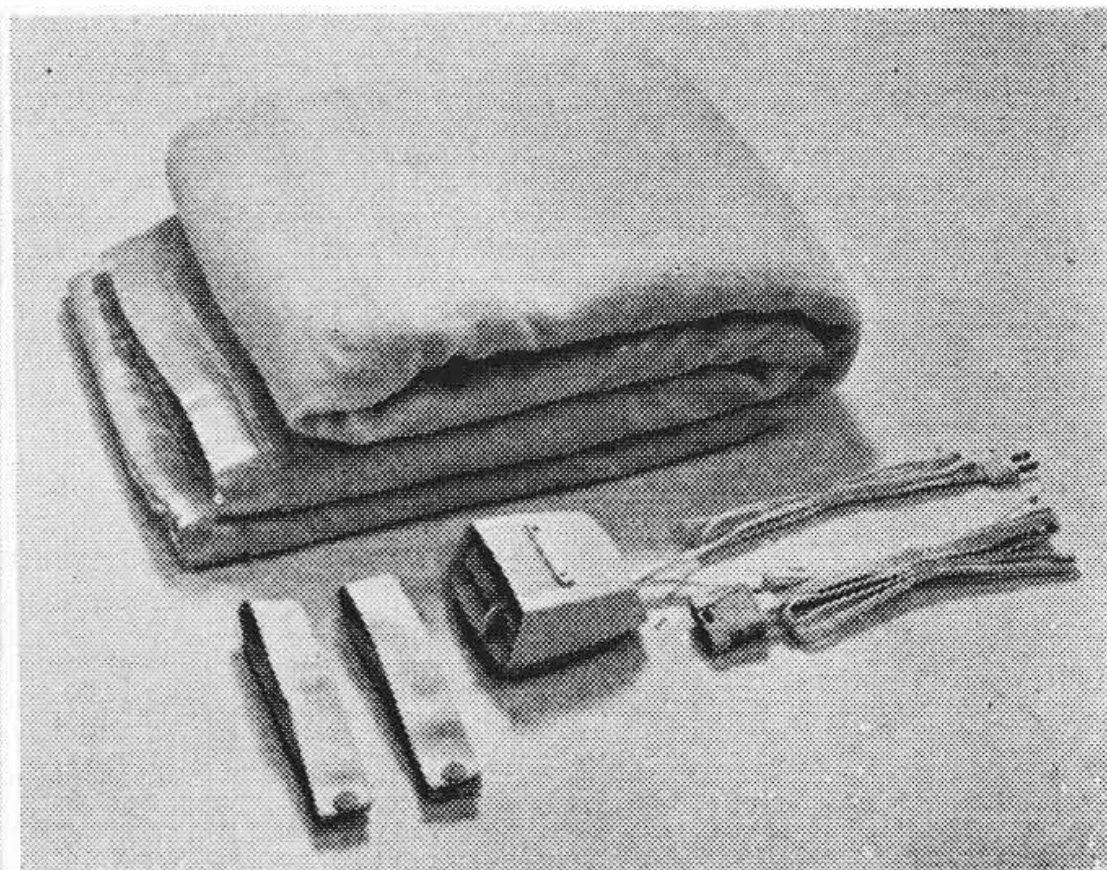
第 37 図 セパレート電気釜シリーズ



第 38 図 HSP-23 形ガスこんろ



第 39 図 KH-44 形赤外線ミラクルこたつ



第 40 図 YB-15 形自動電気毛布

部屋を好みの温度に自動制御が可能となっている。

(g) パネ止め式化粧カバー・・・室内空気の除塵用として化粧カバーに取り付けて使用しているフィルタの掃除を容易にするため化粧カバーの取り付け方法をネジ止式からパネ止式にしてある。

13.3 電 熱 器 具

家庭電化の充実につれ普及もさらに増大している。これに答え 38 年度は質量ともいっそうの充実が図られた。特に保温式電気釜一連シリーズ、新構想のガスこんろなどを新たに市場に供給し、需要に答えることができた。

13.3.1 保温式電気釜

セパレート形直熱式電気釜は、多用途に使用できて好評を得ているが、さらに保温装置を取り付け、操作しやすい押ボタン式の切替スイッチにより保温できる一連のシリーズが完成した。たいご飯を暖かく保温し、夏でもご飯の腐敗を防ぐ効果のあることはもちろん、保温プレートとして汁物、煮物の保温ができる特長を備えた電気釜である。用途に応じ 1 l から 2.8 l たきまでの 4 機種を取り揃え、需要に対処しており、非常な反響を呼んでいる。

13.3.2 ガスこんろ

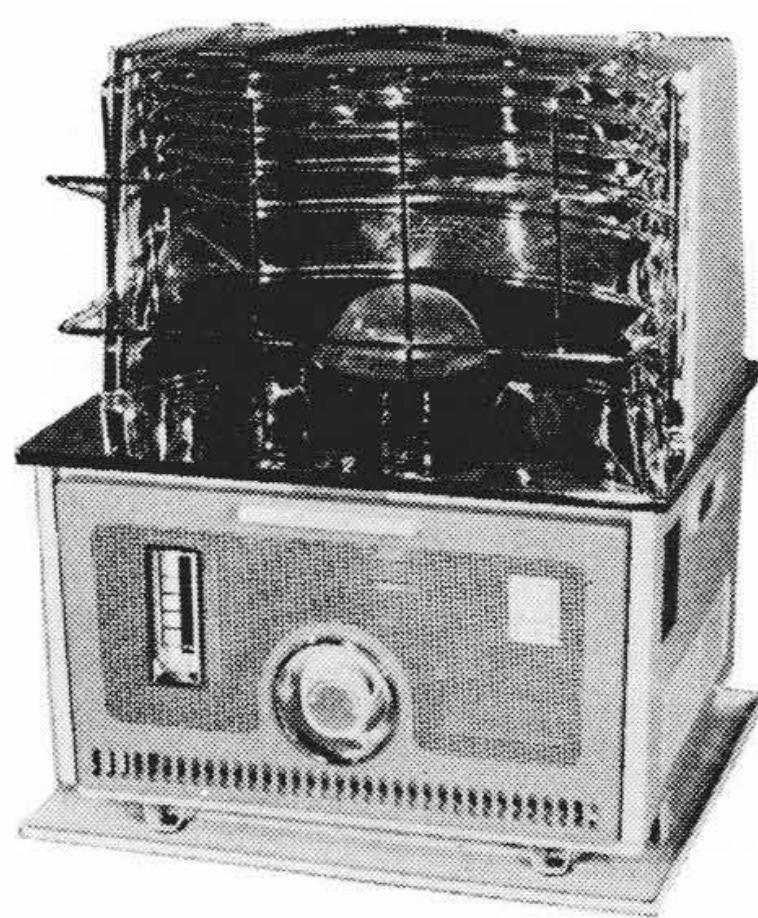
HSP-23 形ガスこんろは、安定した着火の得られる新点火機構とツマミを回すだけで自動点火から火力の調節までできる独特の回転式コックを採用した合理的構造であり、また受皿は煮こぼれ防止付のステンレス製で、いつも清潔に使用できる特長を有している。

13.4 暖 房 器 具

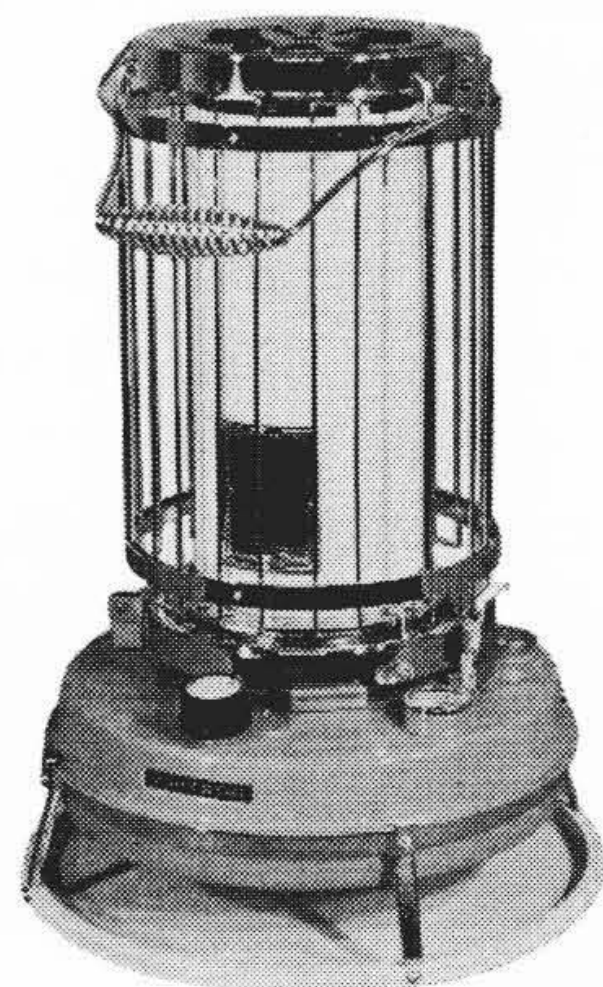
快適な採暖、速熱性、十分な暖かさなど暖房器の必要条件を満足する独特の赤外線ミラクルこたつ、画期的な自動毛布、性能、安全性ともすぐれた石油ストーブは特筆される 38 年度の研究成果である。

13.4.1 赤外線ミラクルこたつ

こたつの熱源としての必要条件をすべて具備する、新しく開発したガラスセラミックヒーターを使用した KH-44, KH-32 形こたつは、多量のふく射熱を放射し、かつその分布が均一で速熱性が大



第 41 図 OVH-33 形
石油ストーブ



第 42 図 OVC-421 形
石油ストーブ

きく、むらなく暖めるほか、対流熱も有しソフトな暖かさも得られる理想的なこたつである。さらに強度もヒーター、器体とも強く大きな期待が寄せられている。

13.4.2 自動電気毛布

YB-15 形自動電気毛布は柔軟な発熱線の全域にわたり、熱を感知する信号線が組み込まれ、毛布のどの部分が異状過熱されても保安装置が鋭敏に動作して回路を遮断するので、非常に安全性が高く、かつサーモスタットがないので柔らかくて感触がよく、発熱体も頭寒足熱方式に配置し、採暖効果が非常にすぐれている。

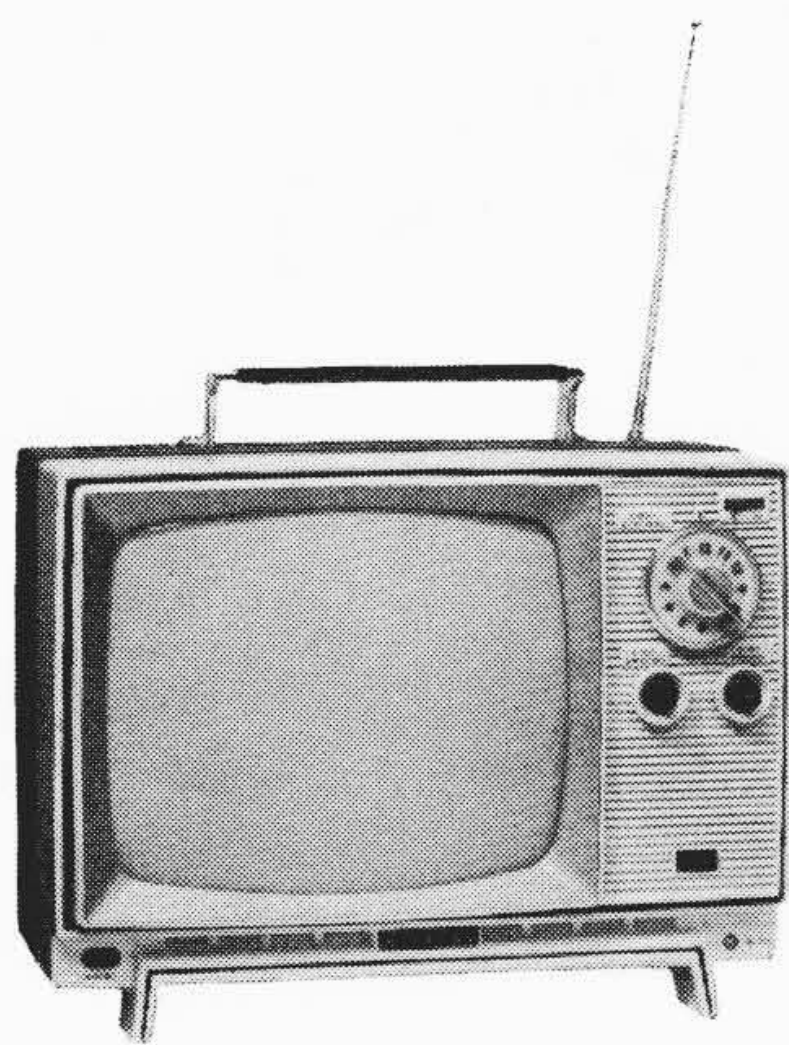
13.4.3 '64 石油ストーブ

(1) OVH-33 形石油ストーブ

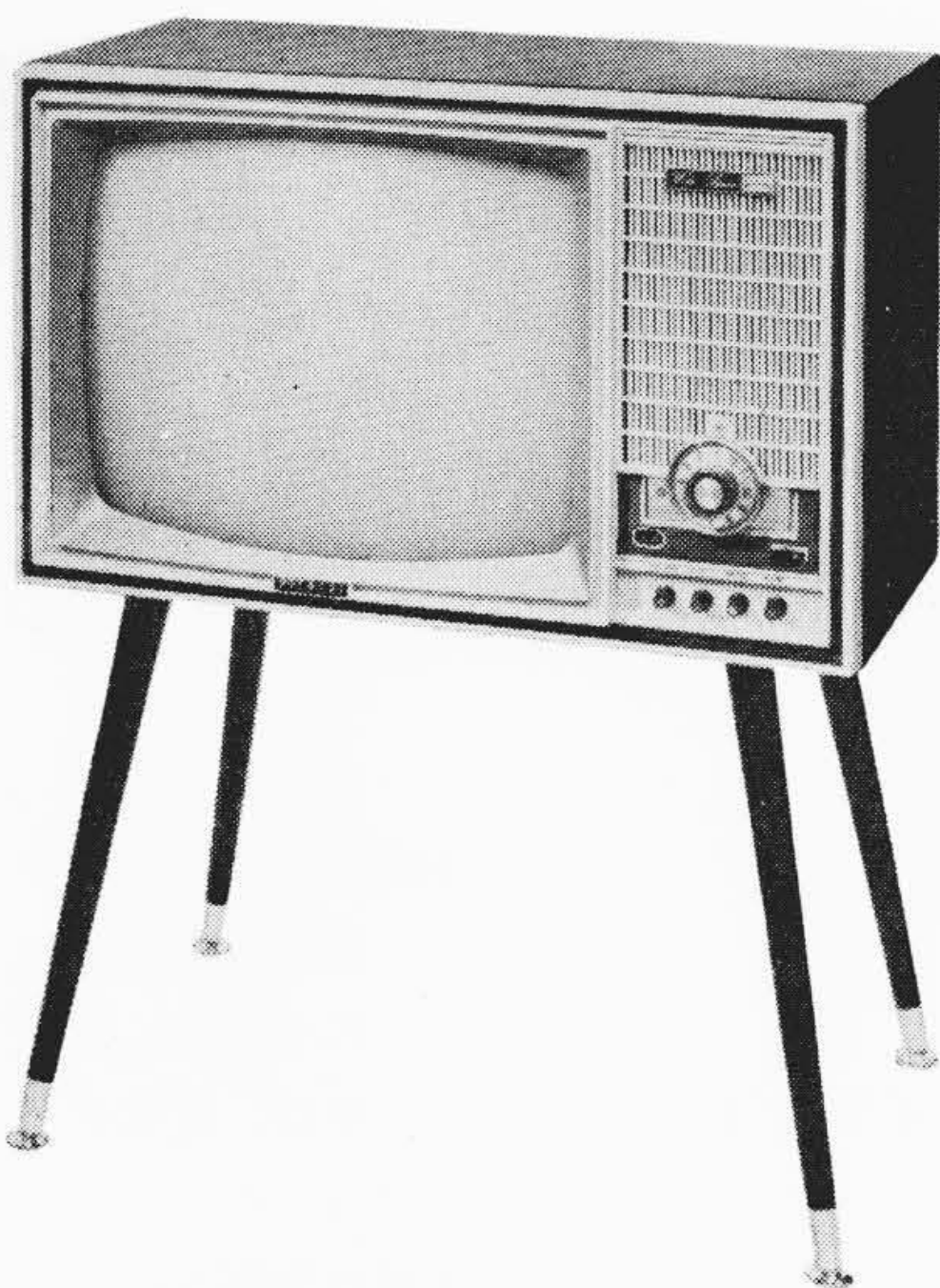
多量の赤外線を放熱する 6～8 畳用反射形石油ストーブで、性能と安全性の向上に重点を置き設計製作され、部品精度の向上、品質の均一化をとおして燃焼性も一段と改善され、特殊形状の反射板の効果と相まって暖房効果も格段とすぐれた製品である。

(2) OVC-421 形

昨年度好評の OVC-42 形をさらに改良した、6～8 畳用対流形石油ストーブで、性能はもちろん、安全性の向上、サービスの簡易化などが考慮されている。



第43図 12形テレビ
TWX-760R



第44図 19形テレビ N-4500



第45図 16形コンソールテレビ ST-3500

13.5 テレビおよび音響機器

38年度の家庭用電子機器の需要と生産は世界的に一段と進展したが、日立製作所において特筆すべきことは、特長ある新機種開発の面で量、質ともに顕著な発展をなし遂げたことである。

まずテレビ受信機では各種ブラウン管サイズの機種数の増加とそれぞれにおいて特長が付加され、またポータブル形に著しい発展があった。次にラジオ受信機においては、レーダーチューニング付ラジオを中心にしたポータブルラジオの開発と、FM機種の増加および押ボタン式カーラジオの開発がなされ、ベルソーナはレベルマッチ付実用形の開発など、シンフォニカについてはオートプレーヤーの開発を中心にして本質的な音質向上と各種新付属装置の付加が実現した。

13.5.1 テレビジョン受信機

(1) プリントブロック化による性能向上および均一化

回路を5種類のプリントブロックに分割することをほとんどの機種に適用し、わが国のテレビ受信機では、最もプリント化が進んでいる。これにより、サービスしやすくなり、性能は安定化し、均一となり、テレビ受信機の信頼度は一段と向上した。

(2) 操作の自動化

テレビ受信機に最良の性能を発揮させ、取り扱いを容易にするために、操作自動化の研究を進めてきたが、A. F. T(自動微調整)、A. B. C(自動輝度調節)、A. C. C(自動コントラスト調節)、A. S. C(自動垂直振幅調節)の開発を行ない、STX-550, ST-3200, ST-2800, ST-7000などに実施し、これにより、性能および安定度が向上した。

(3) 12形テレビ TWX-760Rの開発、発売

小形軽量にして、大形テレビに劣らぬ性能を持った12形ポータブルテレビとしていち早く開発、発売したが、市場においてはきわめて好評であり、他社をリードしている。なおこれはパリの国際工業デザイン展に日本代表として出品された。

(4) 14形カラーテレビの開発、16形の開発

17形につづいて、14形カラーテレビを開発、発売したが、安定度はさらに向上し、画像の明るいカラーテレビとして好評である。また、90度偏向16形ワイドスクエアカラーテレビの開発を行ない発表した。

(5) トランジスタテレビの量産

8形トランジスタテレビ、EY-560、およびE-5200を発売した

が、さらに、数多くの特許(出願中)を使い、超安定の12形トランジスタ式テレビ TW-2100を開発し、発売した。

(6) 19形テレビの量産

買いやすい、大形画面のテレビとして19形テレビ N-4500, N-3400, N-8400, N-1800を発売して、市場の要望にこたえた。

(7) コンソールテレビの量産

16形コンソールテレビ ST-3500, ST-7000を発売したが、デザインおよび性能の面で好評を得ている。

(8) 輸出テレビの開発

東南アジア、ヨーロッパに対して着々と輸出実績を上げ、性能およびデザインともに好評を得ているが、アメリカ市場に対しても、16形ポータブルテレビ、STX-660その他の機種を輸出し、好評である。このセットはアメリカ市場向の安全規格に対する承認(ロスアンゼルスアプロバル)を得ているばかりでなく、アメリカ FCC 規準にも合格している。

13.5.2 ラジオ受信機

ラジオは、アルゼンチン国よりブルーリボン賞を受け、その品質の高さが賞讃されたが、本年度の重点として特長のある製品、すなわちセールスポイントをもった製品の開発に努力が傾けられた。

(1) WH-777<ハイフォニックジュニア> 完全な同調点を光で示すレーダーチューニング(実用新案申請中)付きで、低廉価を打ち出した7石2バンド、光るラジオ“ハイフォニックジュニア”の愛称で市場の人気をよんでいる。

(2) WH-888<スリー・エイト> レーダーチューニング付き8石2バンドラジオで、短波受信用クリスタル付き one side control 機能など、各種特長をもっている。

(3) WH-999<スリー・ナイン> 上記と同様、レーダーチューニング付き9石3バンドラジオで、23 Mcまで受信できる高級品であり、感度、S/N比においては斯界随一である。

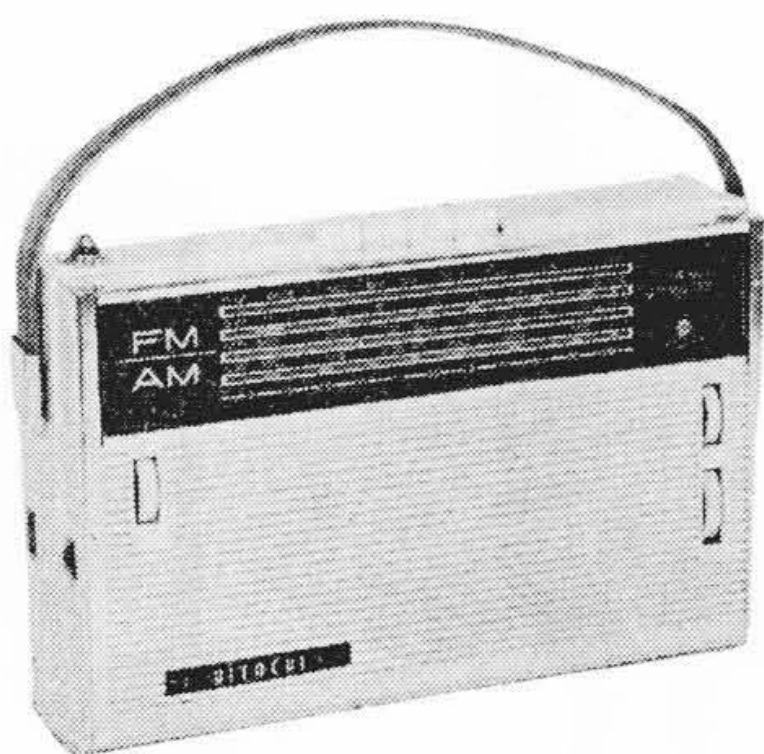
(4) TH-600 カメラのデザインと機構を新しく取り入れた6石シングルバンドラジオで、前面リングを回転することにより同調が簡単にとれるようになっている。

(5) F-555<スリー・ファイブ> 5球トランスレスFM/AM普及形受信機で、今後のアメリカ向輸出に備え、不要輻射、U.L規格などに関しても、十分検討されている製品である。

(6) KH-903D FM/AM 9石トランジスタラジオで、フロントエンド回路には、強電界でもひずみを生じない特殊回路を採用し(特許出願中)、感度および音質ともにすぐれ、好評を博し



第 46 図 光るラジオレーダー
チューニング付 7 石 WH-777
〈ハイフニックジュニア〉



第 47 図 FM 付 9 石
ラジオ KH-907H

ている。

(7) KH-907H 輸出専用機種で、FM/SW/MW/LW 4 バンド 9 石トランジスタラジオである。感度、音質、音量など、性能面において、欧州一流製品と比べても数段すぐれている。

(8) WH-900 SW₁~SW₃/MW 4 バンドレーダーチューニング付き 9 石トランジスタラジオで、短波は 28 Mc まで受信可能で、全世界の放送を受信できる高級セットである。

13.5.3 カ ー ラ ジ オ

カーラジオの需要は、乗用車の生産台数の増加と相まって増加の一路をたどっているが、日立製作所においてもすぐれた特長を持つ本格的なプッシュボタン式カーラジオの商品化を行なった。

(1) カ ー ラ ジ オ TM-719

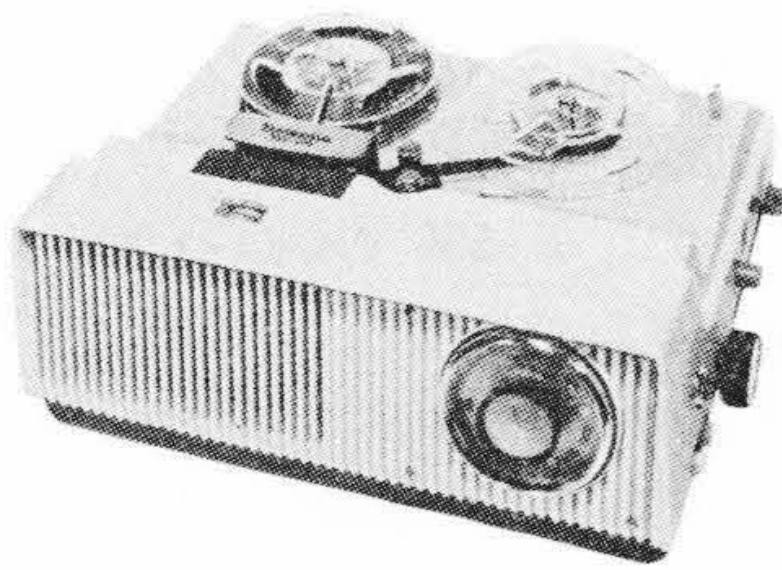
本機は市販用標準形プッシュボタン式 7 石トランジスタカーラジオであり、特に性能面で三大特長を持っている。すなわち同調形高周波増幅回路つき、2 ダイオードによる独立形 AGC 回路の採用、ドリフトトランジスタの 3 本使用などにより、ずば抜けた感度を持ち難聴地帯と言われるビルの谷間、山間地でも鋭い感度を示している。一方低周波回路においては新形大出力トランジスタ 2SB367 を使用、また出力トランスを省略した OTL 方式を採用し最大出力 5 W を得ており、周囲の騒音が大きい状態でも余裕のある音を楽しむことができる。また電流消費は従来の A 級シングル方式に比し無信号時で約 1/4、通常の音量時で約 1/2 と非常に少なくすることができた。そのほか振動、衝撃、広温度範囲でも安定した動作をするよう使用部品についても特に留意し設計されている。また本機は 12V を電源とするすべての自動車に取り付けられるよう各車種専用取付金具も用意してある。

(2) カ ー ラ ジ オ TM-753

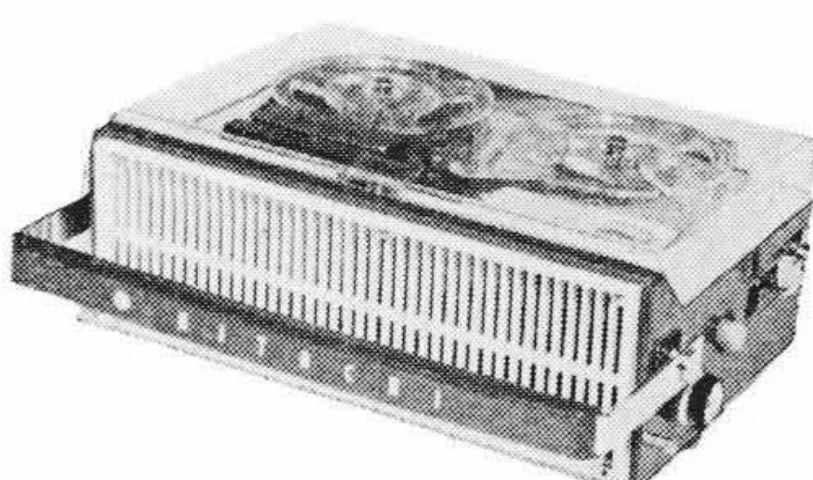
本機は普及形として設計されたもので、取付部奥行きが 124 mm と非常に短くなっている。性能面では最大出力 2W 以上としたほか方式的には TM-719 と同一であるため、すぐれた特長はそのまま生かされている。そのほか普及形ラジオとしてはじめて連続トーンコントロール回路を採用し使用者の便を図ってある。またミニカー用アンテナ、各車種専用取付金具も用意してある。



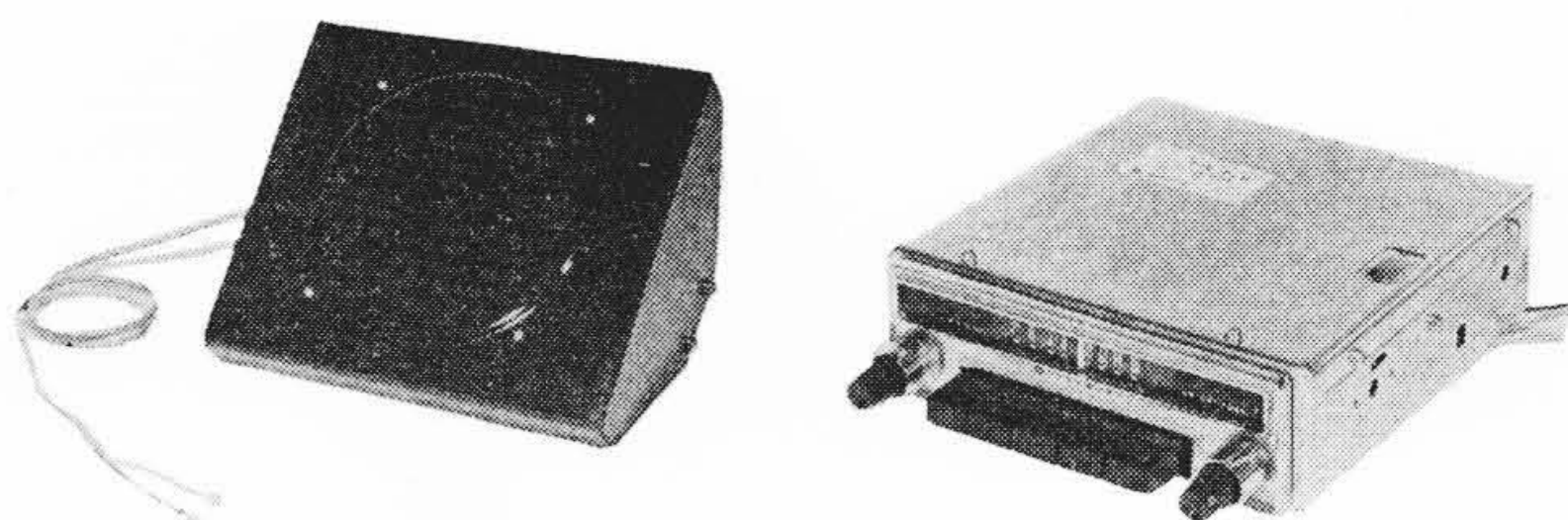
第 49 図 真空管式ベルソーナ
J (ジュニア)



第 50 図 ラジオ付トラン
ジスタ式ベルソーナ 398



第 51 図 トランジスタ式
ベルソーナ 300



第 48 図 押ボタン式 7 石カーラジオ TM-719

(3) TM-721

本機は標準形 7 石カーラジオとして日産自動車のきびしい試験に合格し採用されたセットで、特に自動車に装備され輸出される場合もあるので耐湿、耐温、耐振、可動部寿命について考慮が払われている。また、電氣的にも妨害特性などが改善されている。

13.5.4 ベ ル ソ ー ナ

機種充実をはかるとともに、若い需要層をねらった数々の特長を有する下記 3 機種の開発を行なったが、最も著しい特長は、録音回路で過大入力波形のひずみを補正し、さらにこの補正回路（フィードバック回路）の遅延特性でも、ほとんどタイムラグのない、きわめて高性能の振幅制限回路、レベルマチック（録音レベル自動調節装置＝特許出願中）を採用したことである。レベルマチックは、基準録音レベルをこえる信号に対して動作し、録音レベルを下げる働きをする。したがって最適録音レベルに一度セットしておけば、大きな入力に対してもひずみの小さい上手な録音が容易にできる機能を備えている。

次に、ポータブルテープレコーダーにラジオを組み込むことに成功した。これはポータブルラジオとしても使用でき、容易に放送を録音できて便利であるが、ラジオとテープを同居させると、交流バイアス用の発振出力がラジオにビート妨害を与えたり、直流モータのガバナおよび整流子部より発する火花がラジオに雑音妨害を与えるなどのトラブルが起こる。これらのむずかしさを解決してラジオ付ポータブルベルソーナを開発した。

(1) ベルソーナジュニア (TRA-500)

レベルマチック、ワンハンドコントロールという操作面の 2 大特長と、前面いっぱいの大形スピーカによるすぐれた音質で、2 万円以下という普及価格である。

(2) ベルソーナ 398 (TRT-398)

8 石ラジオにまさる高感度ラジオ付きで、ラジオとテープレコーダーの 2 台分の働きをする。そしてラジオ放送をつまみ一つの操作で容易に録音でき、しかもラジオを聞きながら録音も可能である。

(3) ベルソーナ 300 (TRQ-300)

レベルマチック付き、携帯に便利なハンドル付きで、小形携帯用として珍しい早送り付きのポータブルテープレコーダーである。前面音響方式と高出力 (500 mW) によってすぐれた音質を楽しむ。

13.5.5 シンフォニカ

従来よりシンフォニカに実施して好評であった、MB プレーヤー、SBピックアップのうえに、オートイン、オートスタート、オートカット、オートリターンとスリーピングスイッチ動作をするオートプレーヤーを完成し、演奏の自動化を図り、FM 放送の本格化に備えて FM 受信回路の全面的な採用と、FM ステレオ受信可能の構成



第52図 FMつきシンフォニカ 500
(オートプレーヤー内蔵)



第53図 FMつきシンフォニカ 410
(オートプレーヤー内蔵)

とし、外観のポリエステル塗装による美しい仕上げとともに好評を博している。

(1) シンフォニカ 500

25 cm スピーカー 2 個と、6.5 cm スピーカー 2 個による柔らかい音を目標に設計されたセットで、前記特長のほかに、ダイヤモンド針を使用して針の寿命の飛躍的な延長と音質の向上を図り、セパレーションコントロール回路によりカートリッジに生ずるクロストークを改善できるようにした。ダイナミックレンジコントロール回路は、コンプレッサからエクスパンダまで強弱音のレンジを連続可変にして、テープレコーダーへの録音、バックグラウンドミュージックへの活用、音の迫力の増加など、多用途に向く回路にし、FMは AFC 回路の採用により同調ずれを防ぐなど仕上げのきれいなキャビネットとともに高級機の風格を備えている。

(2) シンフォニカ 410, 400

中級機にもかかわらず上記特長を備え、20cm×16cmと6.5 cmの4スピーカーシステムとダイヤモンド針によるシンフォニックトーンをねらった機種である。特にこのクラスの機種としてははじめてのダイナミックレンジコントロールはシンフォニカ 500 と同様に、大きな音量で聞く時のピークひずみを抑制し、快い音を楽しめる。

(3) シンフォニカ 300

このクラスでオートスタート装置のプレーヤーを使用したのは日立製作所だけで、FM受信ができるほか、ラウドネスコンペンセータと残響装置の付いた普及形セットである。

13.5.6 アンテナ

(1) テレビ・FM兼用アンテナの開発

FM立体放送の本格化に伴い、立体放送の正しい再現には、FM放送受信用のアンテナが必要となろう。現在、大半の世帯に普及しているテレビ受信機のアンテナと共用できれば便利である。このため開発されたものが〈TV・FM兼用アンテナ〉で、4・6・8素子がある。

(2) 2台目テレビ用家庭用分配器 “カプラス”

テレビ受信機が一家に2台となり、またFM受信機の普及でアンテナを2本以上建てなければならなくなったが、“カプラス”

を使えば1本のアンテナより分配でき、かつセット相互の干渉も少ない。

(3) 弱電界地区向家庭用VHF増幅器 (アンテナブースター)

家庭でも取り付けられるオールトランジスタ式 VHF 増幅器 (増幅 20 dB) で、電波の弱いところで活躍している。

(4) カーテレビおよびカーラジオ用アンテナも各種開発されている。

13.6 ミシン

家庭用耐久消費財として、歴史も古く、かつ普及率のきわめて高いミシンにあって、ジグザグミシンのめざましい開発普及は新しい

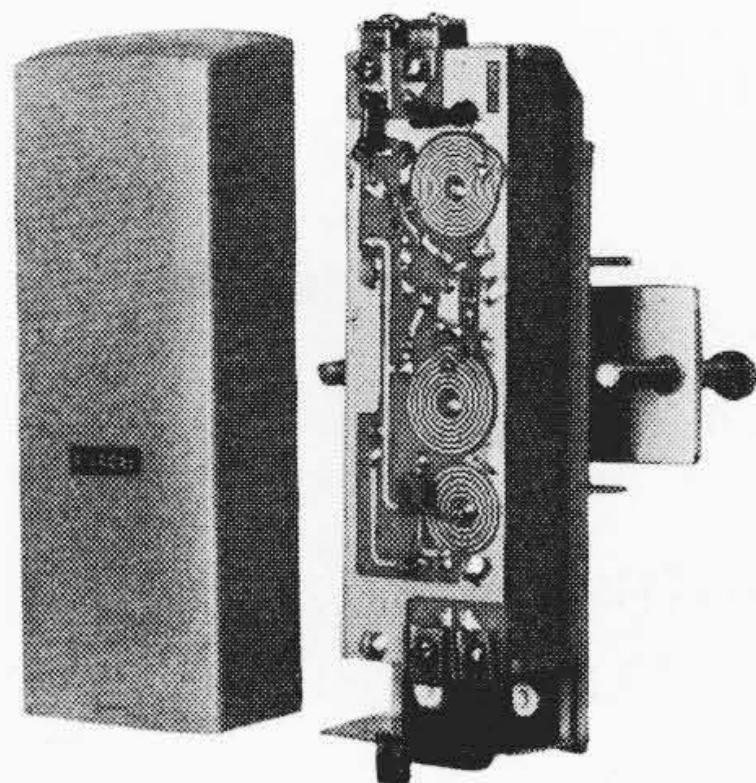
需要を生みだすものとして、注目を集めている。国内販売におけるジグザグミシンの普及率は、昭和33年度はわずか1%程度だったのに対し、昭和37年度は約18%、昭和38年度は約25%と急激に伸び、その伸率は昭和33年度にくらべ25倍という数字を示している。この大きな原因は、2台目としての買替、買増に直結するミシンとして、また、大衆に対して積極的に行なわれているPRの効果により、その知名度、利用価値の認識が高まり、新規需要の対象にもなっているためである。

また、小・中・高校の家庭科に、正式カリキュラムとして、ミシンが採り上げられたことにより、従来見込み層であったこれら小・中・高校生が、需要層として増加したことにより、低価格で、しかも新しい世代の感覚にマッチした近代的センスを盛り込んだ標準形ミシンの要求が起こった。これは同時に、ミシンといえば、いわゆるシンガータイプの黒い丸形ミシンを思い浮べる年輩層に、とってかわる次の世代の需要層の要求とも一致する。

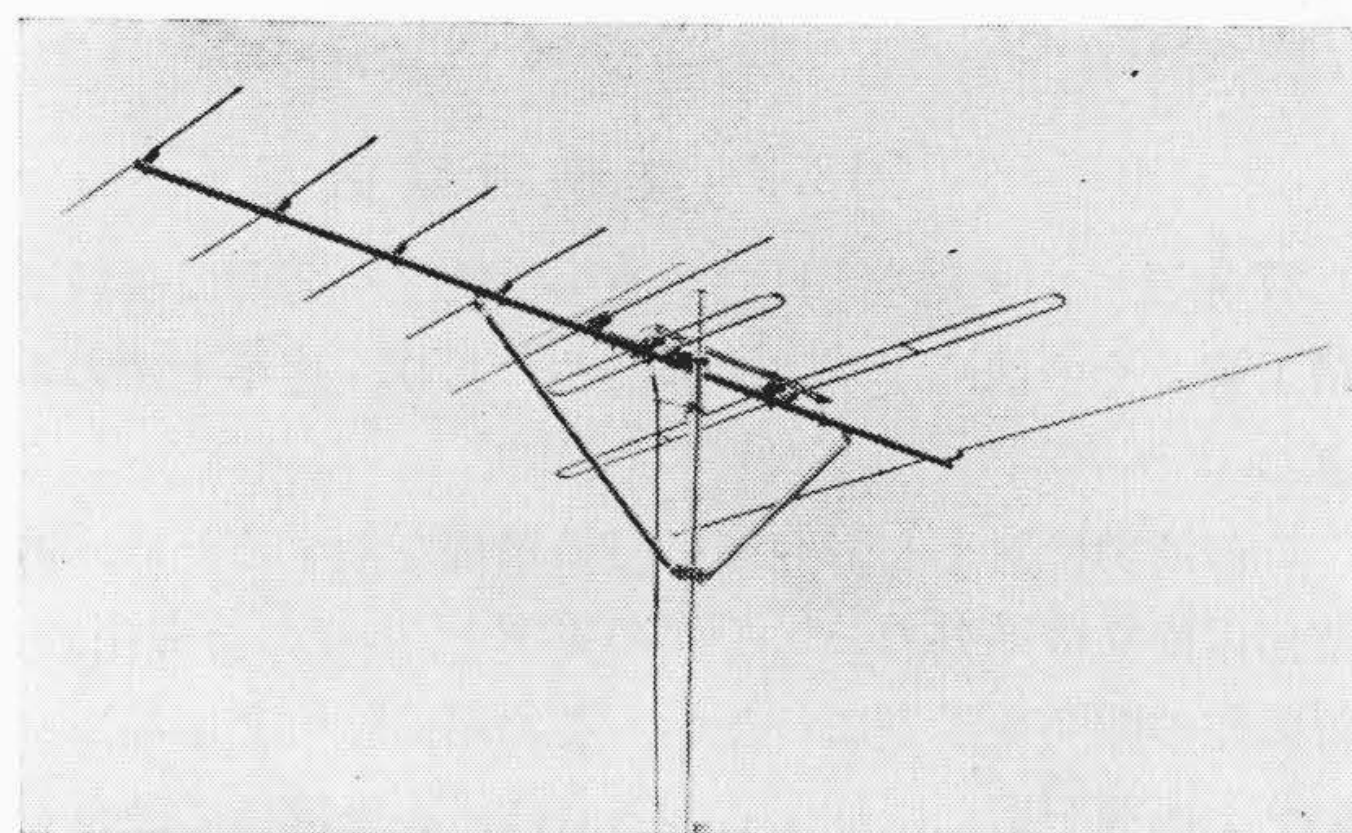
一方都会地区における、生活様式の合理化、世帯細分化に伴い、場所をとらず、しかもスピーディに裁縫のできるミシンとしての電動ポータブルタイプのミシンの需要も増加してきている。38年度においては、これらの需要動向に即応した製品の開発に努力を続け、着実な発展を印した。

(1) ZS-650形 セミジグザグミシン

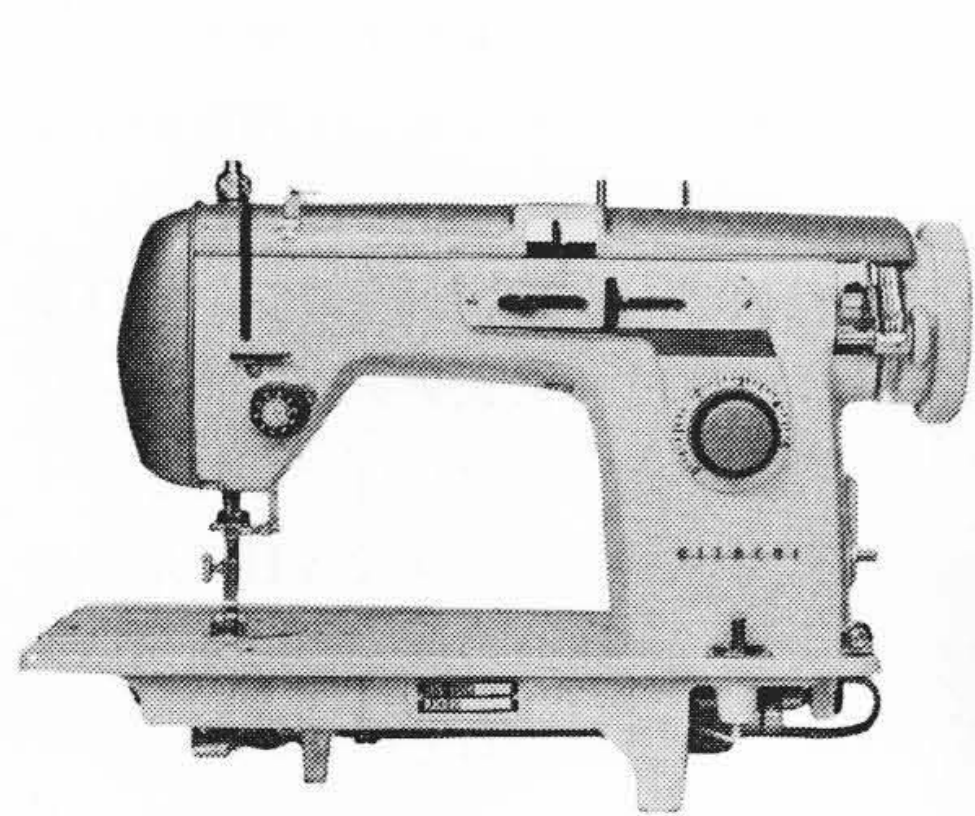
市販開始以来、好評を博しているZA-200形セミオートマチックミシンに引き続き、普及形セミジグザグミシン ZS-650 形を開発、5月より市販を開始した。これは、操作が簡単で、しかもジグザグの機能を満喫できるミシンである。ジグザグレバーを左右に動かしながら縫えば、約5mm幅まで思いのままのジグザグ模様ができ、ミ



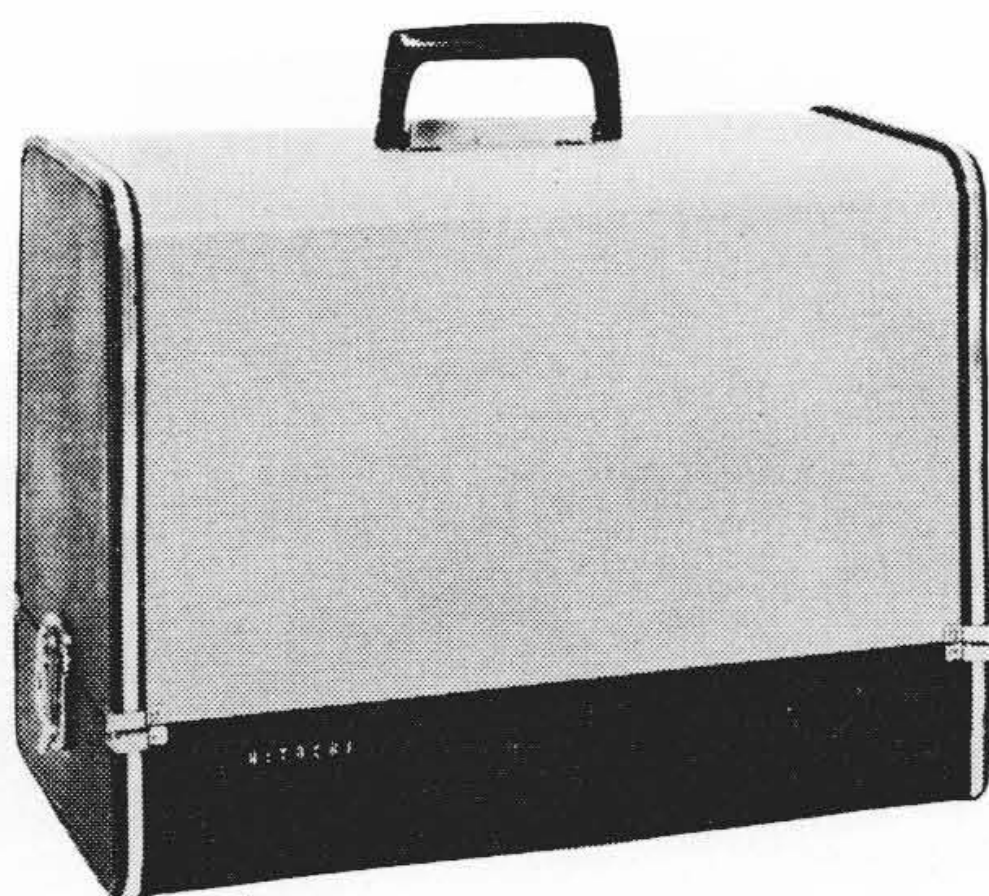
第55図 家庭用 VHF 増幅器
HTAB-2



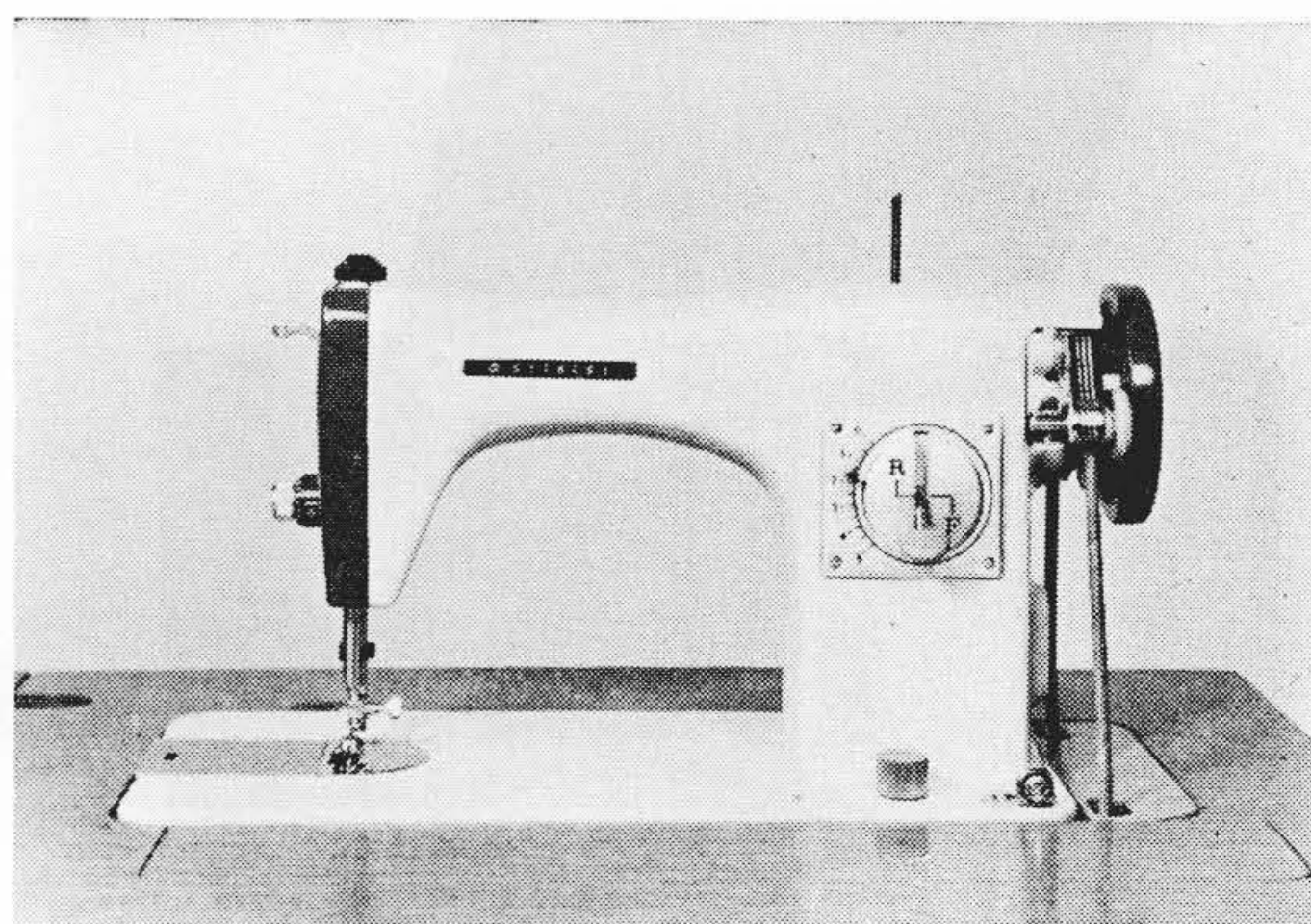
第54図 TV, FM 兼用アンテナ HFT-8



第 56 図 ZF-800 形
フルジグザグミシン



第 57 図 B-7(M) 形ベースカバー



第 58 図 HC-600 形 ミシン

シン刺しゅうを楽しむことができる。付属品の各種部品を使うことにより、ひもつけ、ボタンつけ、かくし縫いなど、いろいろの応用縫いができる。

(2) ZF-800 形 フルジグザグミシン

ZS-650形にさらに針基線位置変換装置を加えたもので、ジグザグレバーの操作と併用することにより、多種多様のジグザグ模様のできるものであり、より複雑・高度の刺しゅうを望む顧客の要望に答えるものとして開発し、11月より市販した。このZF-800形の完成で日立ジグザグシリーズの陣容は、飛躍的に強化し、国内販売における日立シエアの増加をねらうものとして大いに期待されている。

(3) B-7(M) 形ポータブルベースカバー

移動に便利で、場所をとらず、都会地区の若い需要層に好評を得ているB-6(M)形のメリットに、さらに、頭部転倒防止装置および大形裁縫補助板を取り付けられるようにしたベースカバーである。この二つの新装置を加えることにより、裁縫面積も広くなり、注油・点検の際、ミシン頭部を手で押える必要がなくなった。デザイン・色ともに明るくすっきりしていることもよこばれている。

(4) HC-600 形

低価格、使いやすさという点に重点をおいた角形カム式標準形ミシンである。縫目調節装置は手軽にできるレバー式、布押え圧力調節装置は大形ダイヤル式を採用など、若い女性層を主対象に、従来のHC-220形に代わる新しい標準形ミシンとして各方面からの期待は大きい。

(5) 家庭用ミシンモートル

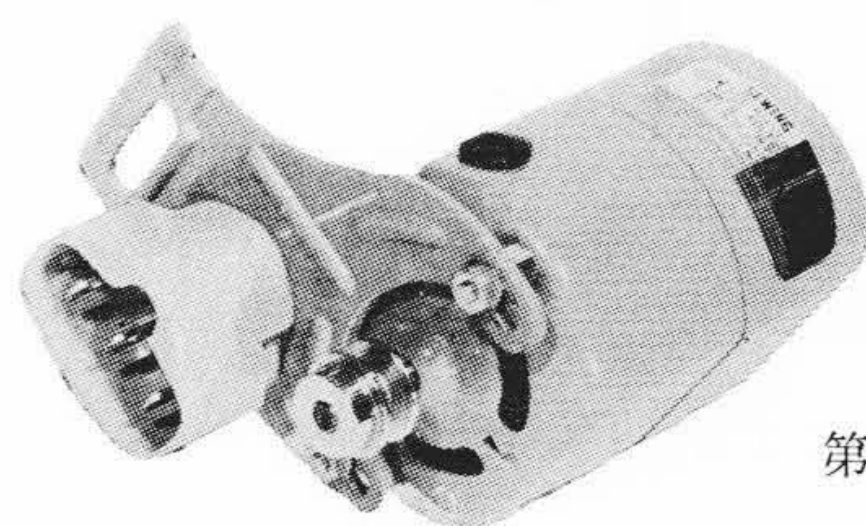
家庭用ミシンモートルの需要が高まるにつれ、特に温度上昇の低いもの、騒音の小さいものを要求する声が大きくなった。HSG-F形ミシンモートル(入力70W)はこの要望に答えるため次のような改良を行なった。

- (i) ブラシキャップの取りはずしによりカーボンブラシの交換を外部から容易に行なえるようにした。
- (ii) ファン部の構造を変更し、冷却効果を良好にした。
- (iii) 外観は第59図のとおりでカバー、取付用アームは鋼板とした。

13.7 業務用電機品

37年度に引き続き、日立業務用電機品の需要は各種サービス業、諸工業、その他に、着実に伸びつつあり、逐年生産の上昇を示してきた。

この情勢に対応し、今後一段の飛躍を期するため、38年度は特に業務用掃除機系列のいっそうの充実と、生産の合理化に重点を置き、新機種の開発を活発に行ない、業務用掃除機2機種、フロアポリッシャ1機種を新たに加えると同時に、在来機種の改良を合わせ行なった。また特殊品の受注、生産も積極的に行ない、需要家の要望に



第 59 図 家庭用ミシンモートル
HSG-F 形

こたえた。また東南アジア各主要都市に、初めて業務用電気掃除機、フロアポリッシャを輸出した。輸出振興が叫ばれているおりから、今後いっそうの発展が期待される。

このほか、業務用電機品の新機種として、業務用ディスプレイを開発し、販売を開始した。都市の厨芥(ちゅうかい)処理問題が重大視されているおりから、今後の伸展が期待されている。

13.7.1 電気掃除機

近来、業務用電気掃除機は家庭用掃除機の普及とともに、その使用効果は広く各方面に認識され、近代洋式建物の増加と、職場環境美化の気運上昇により、清掃の必需品として広く使用されるようになってきた。38年度は業務用掃除機の主力製品である600W掃除機の新形を発表するとともに、小形、軽量、低価格の1kW掃除機の新機種を完成し、機種がいっそうの充実、整備を行なった。また掃除機応用の新需要として、プラスチック成型機用に600Wファンモートルが多数納入され、発電機付属部品として特殊定形形CF-H3形掃除機が大鳥発電所などに納入された。

(1) CF-V₆₀ 形 600 W 電気掃除機

36年度に開発したCF-V4形600W掃除機は、性能、取扱性両面で広く需要家各位の好評を博し、生産は増加の一途をたどってきた。



第 60 図 CF-V₆₀ 形 600 W 業務用電気掃除機

第 61 図 CF-V₁₀₀ 形 1 kW 業務用電気掃除機

たが、この需要を一段と伸展せしめるため、38年度より新形として CF-V₆₀ 形の量産を開始した。本機は CF-V₄ 形と性能仕様は全く同じであるが、特に改良された点は下記のようなものである。

- (i) 従来形と比較し、重量で約 10% 軽量化され、取扱性がいっそう向上した。
- (ii) 車輪は単輪 4 車輪式を採用し、じゅうたん上の機動性を高めた。
- (iii) 新形消音装置の採用により、構造簡単で従来同様騒音少なく、特殊金具を使用せず、ホースを本体に接続するのみで掃除機にも、ブロウにも使用できるようにした。

(2) CF-V₁₀₀ 形 1 kW 電気掃除機

1 kW 掃除機は、業務用掃除機系列として最初に開発された機種である。吸込力が特に強力なので、従来 CF-V₂ 形 1 kW 掃除機が工場、事務所、病院などに多数納入され好評を博してきたが、最近低価格品の要望も多く、この情勢に対応し、実用普及形として小形の CF-V₁₀₀ 形 1 kW 掃除機を完成し、量産を開始した。本機の特長は下記のごとくである。

- (i) CF-V₂ 形と比較し、重量で約 35%、容積では 42% 小形化された。
- (ii) 小形にもかかわらず固定タンクのため集じん容量が大きくフィルタ目づまり特性もきわめてよい。
- (iii) 排気は分散式であり、騒音が少ない。
- (iv) フィルタは取り付け、取りはずし可能な構造を採用したので、フィルタ掃除が容易にできる。

などである。なお CF-V₂ 形に加え本機の完成により、一段と日立 1 kW 掃除機の需要を増大できるものと期待されている。

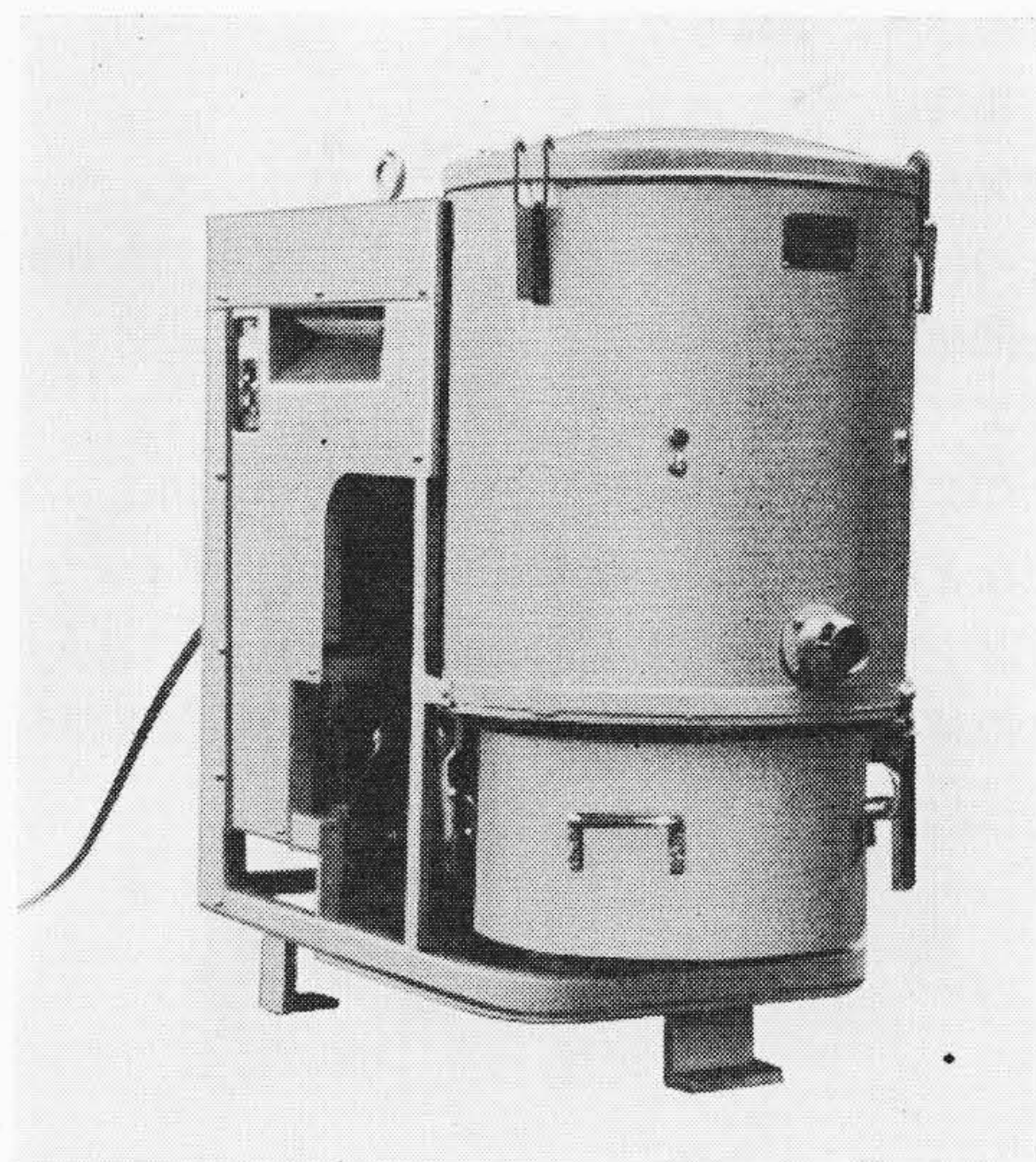
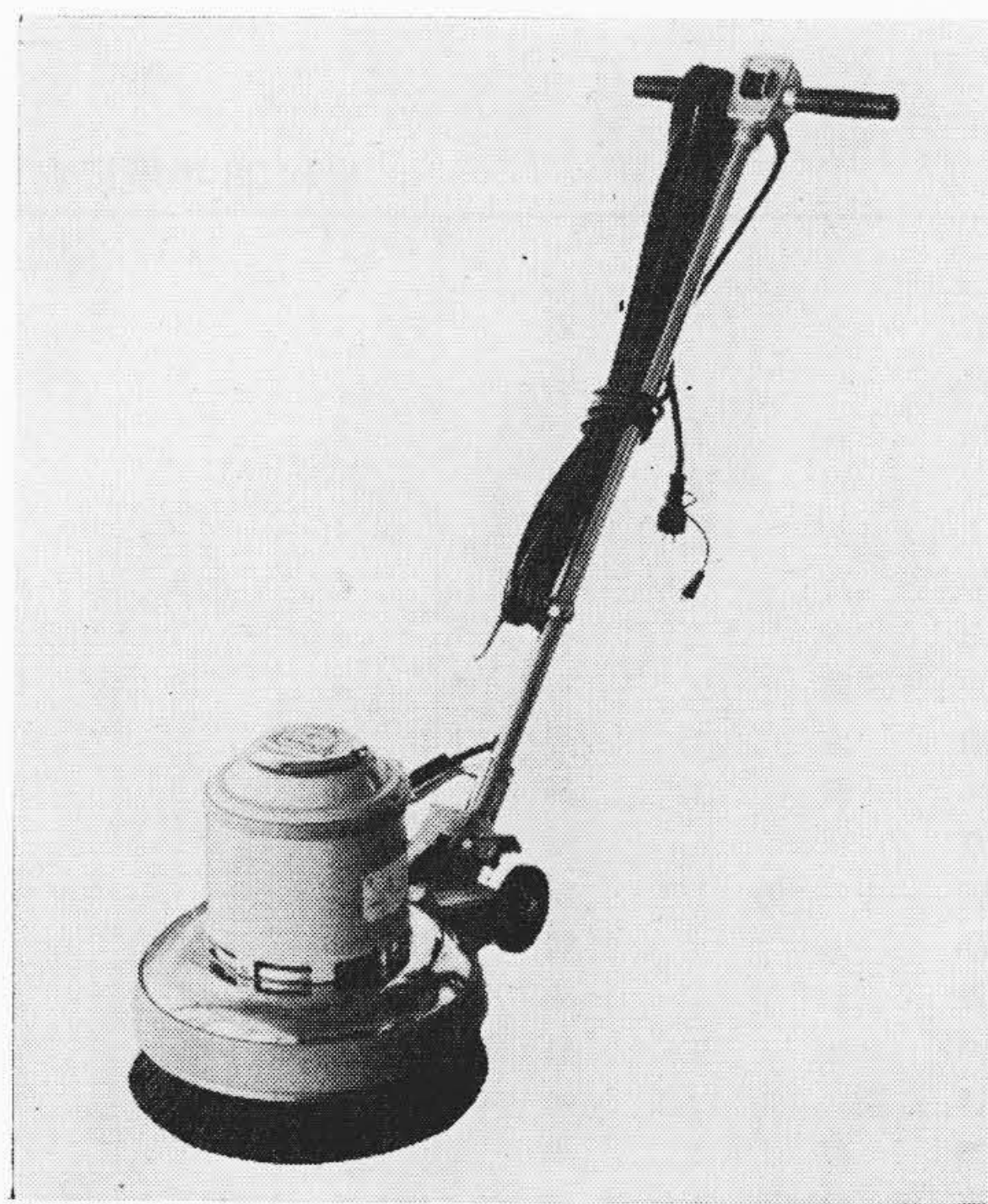
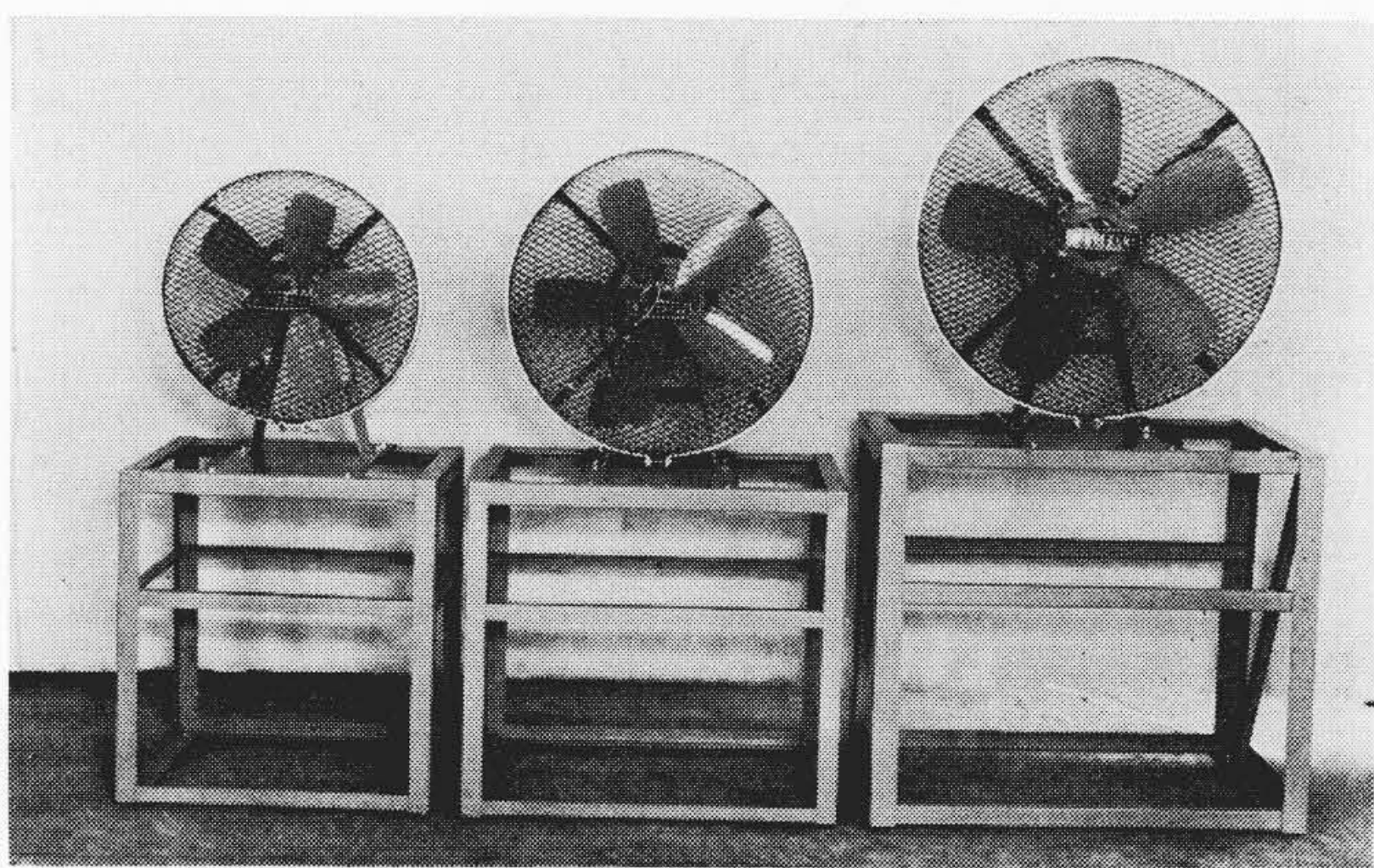
(3) 掃除機応用品

最近、掃除機の用途は一段と多岐に分かれ、この特殊品の受注も増加する傾向がある。38年度製品のおもなものとして、プラスチック成形機用材料供給装置として 600W 掃除機のブロウ主要部を応用したファンモートルを数百台納入、性能的にきわめて好評で引き続き注文を受けている。なお発電所のブレーキ粉除去装置として、大鳥発電所その他に特殊定置形 CF-H₃ 形 1.5 kW 掃除機を納入し、このほかクレーンレール掃除用に特殊 CF-H₂ 形 3.7 kW 掃除機を受注納入した。

13.7.2 フロアポリッシャ

(1) フロアポリッシャの改良

フロアポリッシャは近来需要の伸びが特に著しい製品のひとつであ

第 62 図 特殊定置形 CF-H₃ 形 1.5 kW 業務用電気掃除機第 63 図 鋼板ケース製 SF-R₂ 形フロアポリッシャ

第 64 図 WH 形工場扇

るが、38年度は 250 W, 200 W 両機種に対し下記改良を加え、取扱性のいっそうの向上を図った。

- (i) ハンドルを本体より簡単に分離できる構造とし、需要者が自動車などに積み、移動できるようにした。
- (ii) ケースは従来アルミ鋳物製が普通であったが、これを鋼板製とした。表面は硬質クローム鍍金のため、強度大、かつ

外観が特に美麗となった。

(2) 浴場向けフロアポリッシャ

浴場は湿気が高く、漏電の問題があり、スイッチ、モートル、コンデンサその他に防湿対策を行ない、安全に使用できる新機種を開発、販売を開始した。

13.7.3 工 場 扇

工場扇は作業環境を快適にするほか、あらゆる用途の冷却、乾燥、通風、換気などに利用され、高性能、安全性、デザインなどの点で、きわめて好評を博している。本年は羽根径 50 cm のほかに、40 cm、60 cm の 2 機種を加えてシリーズ化を行ない急激な需要の増大に対処した。

13.7.4 低温用換気扇

近年は食品などの冷凍保存が盛んになり、冷凍室内の空気循環用に換気扇が多数使用されるようになった。この種の換気扇は低温において、十分な性能を発揮できるよう、材質、絶縁処理、そのほか各所に特別な考慮が払われており、羽根径 40 cm、46 cm、65 cm などの機種が整えられた。

13.7.5 クーリングタワー用換気扇

都市の地下水汲み上げが規制されるようになり、クーリングタワー用換気扇の需要が急速に増してきたので、羽根径 40 cm～75 cm の 6 機種シリーズを完成し多数の納入実績をあげた。その性能はもちろんのこと、耐食性、防水構造には十分な考慮が払われている。



昭和 38 年度における日立製作所の社外寄稿の成果 (件数)																(昭和 37 年 11 月～昭和 38 年 10 月)	
					37/11	12	38/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合 計
事業所別内訳	日 立 工 場	国 分 田 戸 有 崎 水 賀 戸 志 野 木 浜 塚 奈 川 原 藏 珂 京 阪 島 央 立 本 所 の 他	場 場														